三重県埋蔵文化財調査報告　９９－５

本郷遺跡（第２次）・曲里中遺跡

１９９２年３月

三重県埋蔵文化財センター

例　　言

１　本書は、平成３年度に実施した県営農業基盤整備事業地域内における埋蔵文化財発掘調査のうち、本郷遺跡第２次（多気郡明和町明星）と曲里中遺跡（松阪市曲町）の成果を第５分冊としてまとめたものである。

２　調査にかかる費用は、その一部は国庫補助金を得て県教育委員会が、他は県農林水産部が負担した。

３　調査は、下記の体制で行った。
　調査主体　三重県教育委員会
　調査担当　三重県埋蔵文化財センター
　＜本郷遺跡（第２次）＞　主事　増田安生、石川孝郎　研修員　高崎　仁
　＜曲里中遺跡＞　　主事　増田安生

４　調査にあたっては、明和町・松阪市在住のみなさま、明星土地改良区、松阪堀坂川沿岸土地改良区、明和町教育委員会、松阪市教育委員会および県関係機関の協力を得た。

５　本書で用いた方位は、本郷遺跡（第２次）については国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とする。曲里中遺跡は、位置図以外は磁北による。

６　本書で用いた遺構の略号は下記による。
　ＳＡ‥‥柱列　ＳＢ‥‥竪穴住居　ＳＤ‥‥溝・堀　ＳＥ‥‥井戸
　ＳＨ‥‥掘立柱建物　ＳＫ‥‥土坑　ＳＸ‥‥墓　ＳＺ‥‥その他

７　本書で報告した記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

８　本書作成に伴う遺物整理は発掘調査担当者を中心に実施した。本書の執筆は伊藤裕偉が行った。

９　スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。
　各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本　文　目　次

Ⅰ　多気郡明和町明星　本郷遺跡（第２次）……（１）
　１　調査の経過……（１）
　２　位置と環境……（１）
　３　検出した遺構……（１）
　４　出土した遺物……(24)
　５　調査のまとめと検討……(25)

Ⅱ　松阪市曲町　曲里中遺跡……(27)
　１　調査の経過……(27)
　２　位置と環境……(27)
　３　検出した遺構……(27)
　４　出土した遺物……(30)
　５　調査のまとめ……(30)

挿　図　一　覧

本郷遺跡（第２次）
第Ⅰ－１図　遺跡位置図
第Ⅰ－２図　遺跡周辺地形図
第Ⅰ－３図　事業地内調査区位置図
第Ⅰ－４図　Ａ地区平面図(1)
第Ⅰ－５図　Ａ地区平面図(2)
第Ⅰ－６図　Ａ地区平面図(3)
第Ⅰ－７図　Ａ地区平面図(4)
第Ⅰ－８図　Ｂ地区平面図
第Ⅰ－９図　個別遺構実測図
第Ⅰ－10図　出土遺物実測図(1)
第Ⅰ－11図　出土遺物実測図(2)
第Ⅰ－12図　出土遺物実測図(3)
第Ⅰ－13図　出土遺物実測図(4)
第Ⅰ－14図　出土遺物実測図(5)
第Ⅰ－15図　出土遺物実測図(6)
第Ⅰ－16図　出土遺物実測図(7)
第Ⅰ－17図　出土遺物実測図(8)
第Ⅰ－18図　出土遺物実測図(9)
第Ⅰ－19図　出土遺物実測図(10)
第Ⅰ－20図　出土遺物実測図(11)
第Ⅰ－21図　主要遺構変遷図

曲里中遺跡
第Ⅱ－１図　遺跡位置図
第Ⅱ－２図　事業地内調査区位置図
第Ⅱ－３図　遺構平面図
第Ⅱ－４図　出土遺物実測図

表　一　覧

第１表　本郷遺跡（第２次）遺構一覧(1)
第２表　本郷遺跡（第２次）遺構一覧(2)
第３表　本郷遺跡（第２次）遺構一覧(3)
第４表　本郷遺跡（第２次）遺構一覧(4)

写　真　図　版　一　覧

写真図版１　本郷遺跡（第２次）遺構(1)
写真図版２　本郷遺跡（第２次）遺構(2)
写真図版３　本郷遺跡（第２次）遺構(3)
写真図版４　本郷遺跡（第２次）遺構(4)
写真図版５　本郷遺跡（第２次）遺構(5)
写真図版６　本郷遺跡（第２次）遺構(6)

Ⅰ　多気郡明和町明星　本郷遺跡（第２次）

１　調査の経過

本郷遺跡は多気郡明和町明星字扇田ほかに所在する遺跡である。平成３年度の発掘調査は、1991 年５月７日から開始し、同年８月 30 日に終了した。最終的な調査面積は 4,900 ㎡であった。

本郷遺跡の発掘調査は平成元年度にも実施しており[1]、今回は第２次である。第２次調査区はＡ地区・Ｂ地区の２地区に分かれている。

２　位置と環境

本郷遺跡は明星地区内本郷集落北西部の水田部を中心に広がる遺跡である。標高約 13 ｍで、現況水田面からの比高は約３ｍである。当地は、明治年間頃までは下有爾村地内で、「本郷」とは「下有爾地域の本郷」という意味かと考えられる。

北東約 500 ｍには、同じく国指定史跡の水池土器製作遺跡（水池遺跡）がある。本郷遺跡のある明星地区や南部の蓑村地区近隣は、水池遺跡・黒土遺跡・堀田遺跡など古墳時代後半から古代前半期にかけての土師器製作関連遺跡が多い。これらの土師器製作遺跡は、本郷遺跡の北西約１㎞にある斎宮跡（国指定史跡）の前半期とほぼ重なるため、斎宮の機能と不可分に関わっていると推測される。

平安時代末から室町時代頃（西暦 12 世紀～ 15 世紀後半）にかけては、当地周辺は「有爾郷」として認識されている。ここでは、神宮に土器を調進する「有爾御器長」の存在が知れる[2]。この有爾郷は、本郷遺跡を含む旧下有爾村や、現在の度会郡玉城町有爾中地区までをも含む広域に及ぶ範囲と考えられる。文献上は、中世以降も有爾の地で神宮貢納土器が生産され続けていたことが明らかである。

以上のように、本郷遺跡の歴史的背景としては、古代以来連綿と続く土器製作地の一角であることと、古代から中世前期にかけて存在した斎宮との関係が重要である。そしてこれらを包摂する存在としての伊勢神宮との関係が、基幹的なものとして存在すると考えられるであろう。

３　検出した遺構

発掘調査の結果、弥生時代後期から近代にまで至る遺構が確認された。遺跡の中心となる時期は、平安時代末期から鎌倉時代中葉（中世前期、12 世紀後半～ 13 世紀中葉）と、戦国時代後期（中世後期、16 世紀代）である。

a　Ａ地区弥生時代の遺構

弥生時代の遺構としては、土坑が確認されている。ＳＫ 263・265 は、いずれも単独で存在している。

b　Ａ地区奈良～平安時代の遺構

奈良時代の遺構には、掘立柱建物と土坑がある。掘立柱建物ＳＢ 231 は東西３間、南北２間の側柱建物である。

平安時代の遺構には、土坑・土器焼成遺構やピットがある。掘立柱建物のいくつかは平安時代後葉頃に相当するものがあると考えられる。

11 世紀前半頃と考えられるＳＫ 146 は長辺約 110 ㎝、短辺約 80 ㎝の略方形で、土坑内縁部に粘土を貼り付けたものである。粘土は被熱しており、粘土に覆われた内部には炭・灰層が見られた。土器焼成窯に相当すると考えられる。

c　Ａ地区中世前期の遺構

中世前期の遺構には、掘立柱建物・井戸・土坑・土坑墓・溝のほか、土器窯と考えられるものがある。

掘立柱建物・柱列は 15 棟確認できた。総柱建物と側柱建物とがあるが、中世後期以降の溝による撹乱で、全景を窺えるものが少ない。掘立柱建物を構成するピットはいくつか抜け落ちているが、これは調査段階で認識できなかったものも含まれていると考えられる。ＳＢ 232・248・289・290 のように、建物内南東隅に土坑を伴うものも認められる。

井戸は、合計２基検出した。完掘したものは無いが、ＳＥ 201 からは 12 世紀後半頃の良好な土器群が出土している。

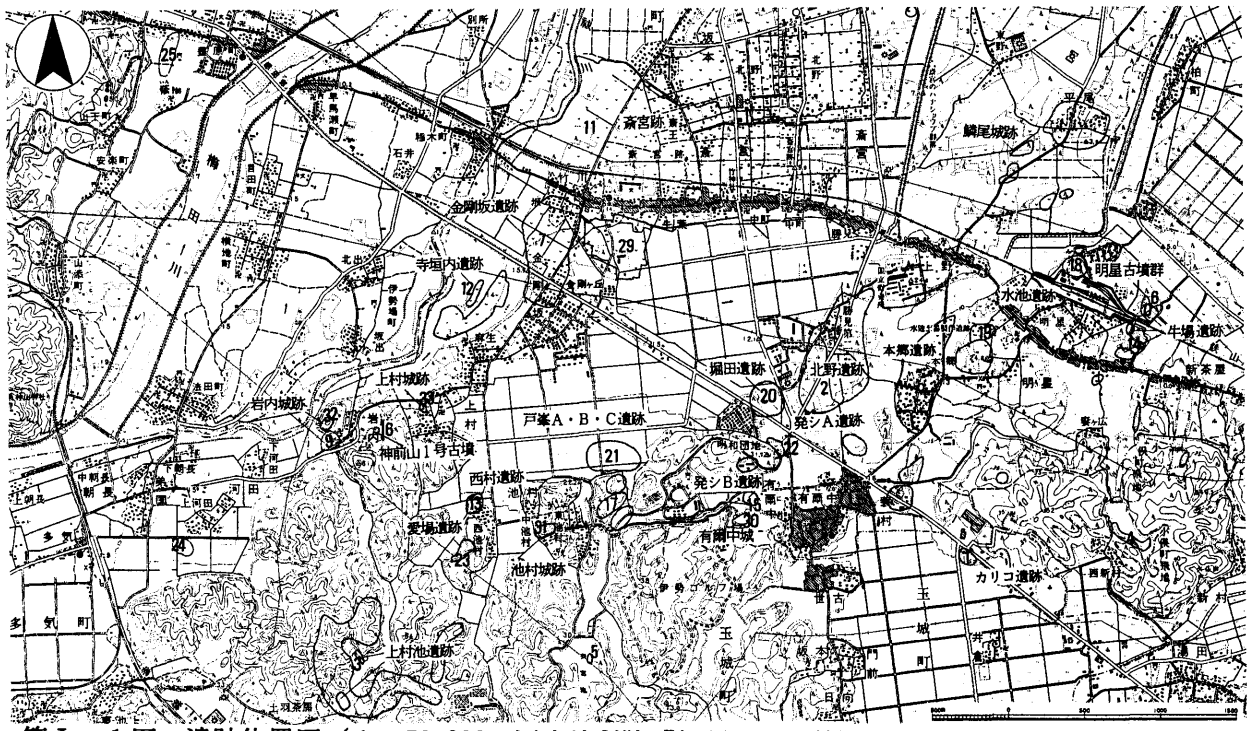
明確な土壙墓は、ＳＸ 195・262 の２基である。

土器窯（土器焼成遺構）は、その可能性があるものとしてＳＫ 146・176・221・223 がある。ＳＫ 216 は 13 世紀中葉頃の遺構で、出土遺物には棒状土製品が含まれているため、この時期に土器生産が行われていたことは確かである。

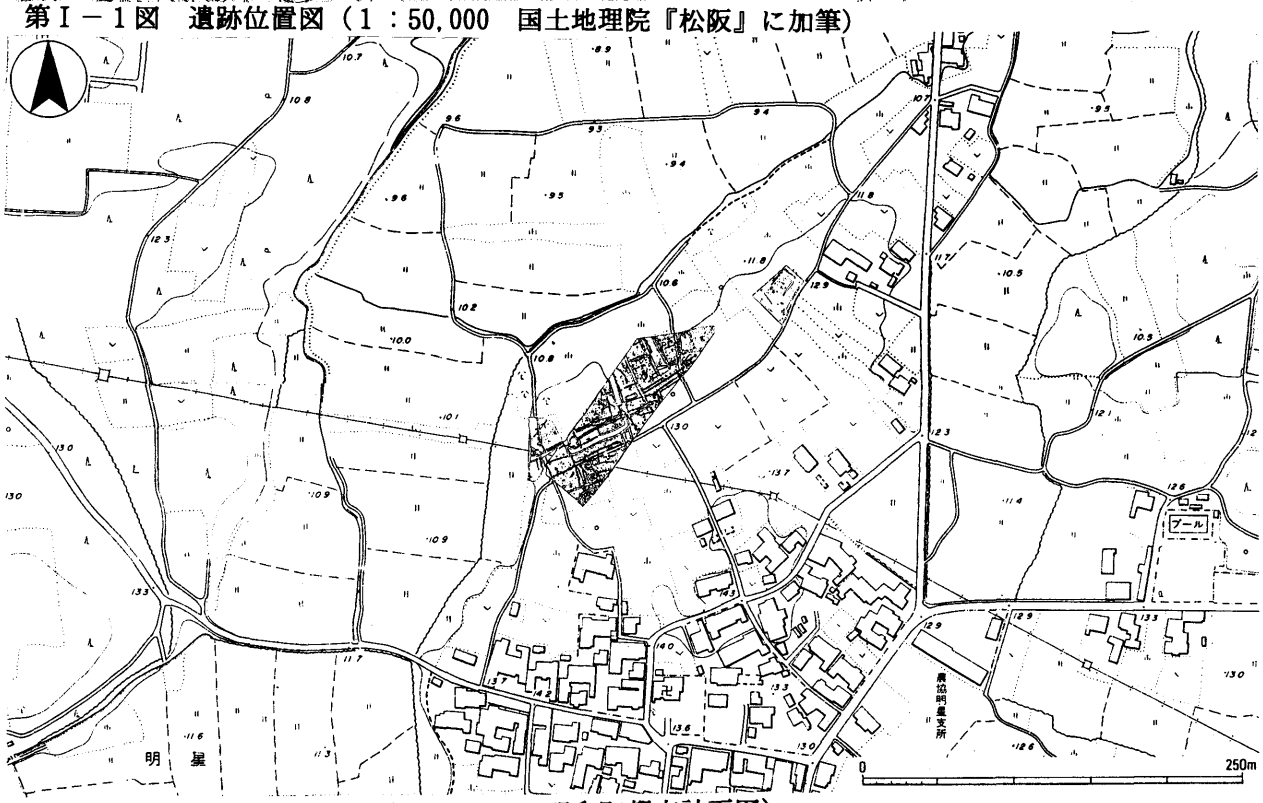
溝は、この段階のものは比較的少ない。ＳＤ 71 は第１次調査区ＳＤ８から続くものである。

ｄ　Ａ地区中世後期の遺構

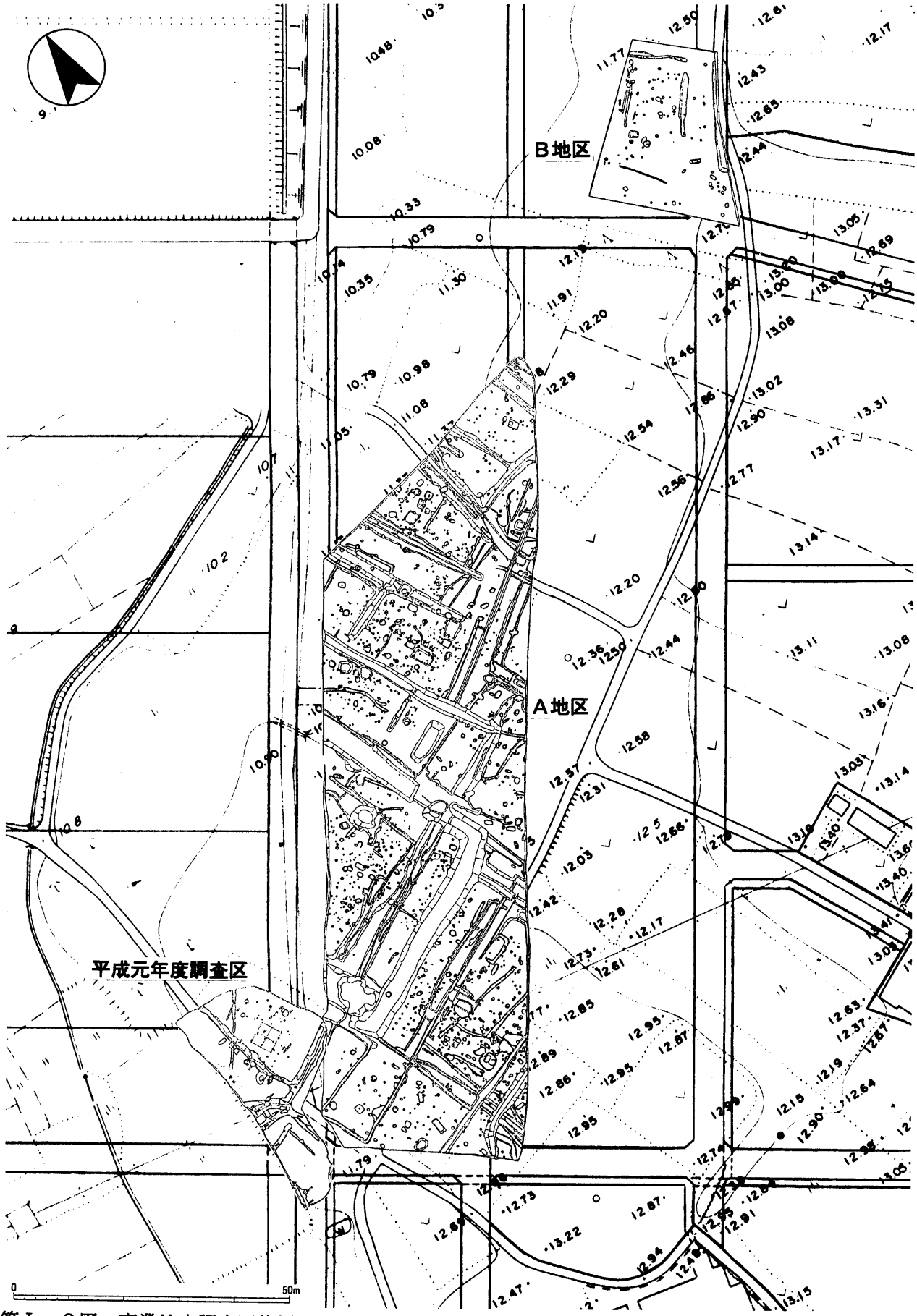
中世後期の遺構には、掘立柱建物・井戸・土坑・溝がある。この時期の特徴は、調査区北西部で検出された、堀（ＳＤ 62・66）で囲まれた屋敷（区画１）と、それに付属する複数区画の存在である。以



第Ｉ－１図　遺跡位置図（１：50,000　国土地理院『松阪』に加筆）



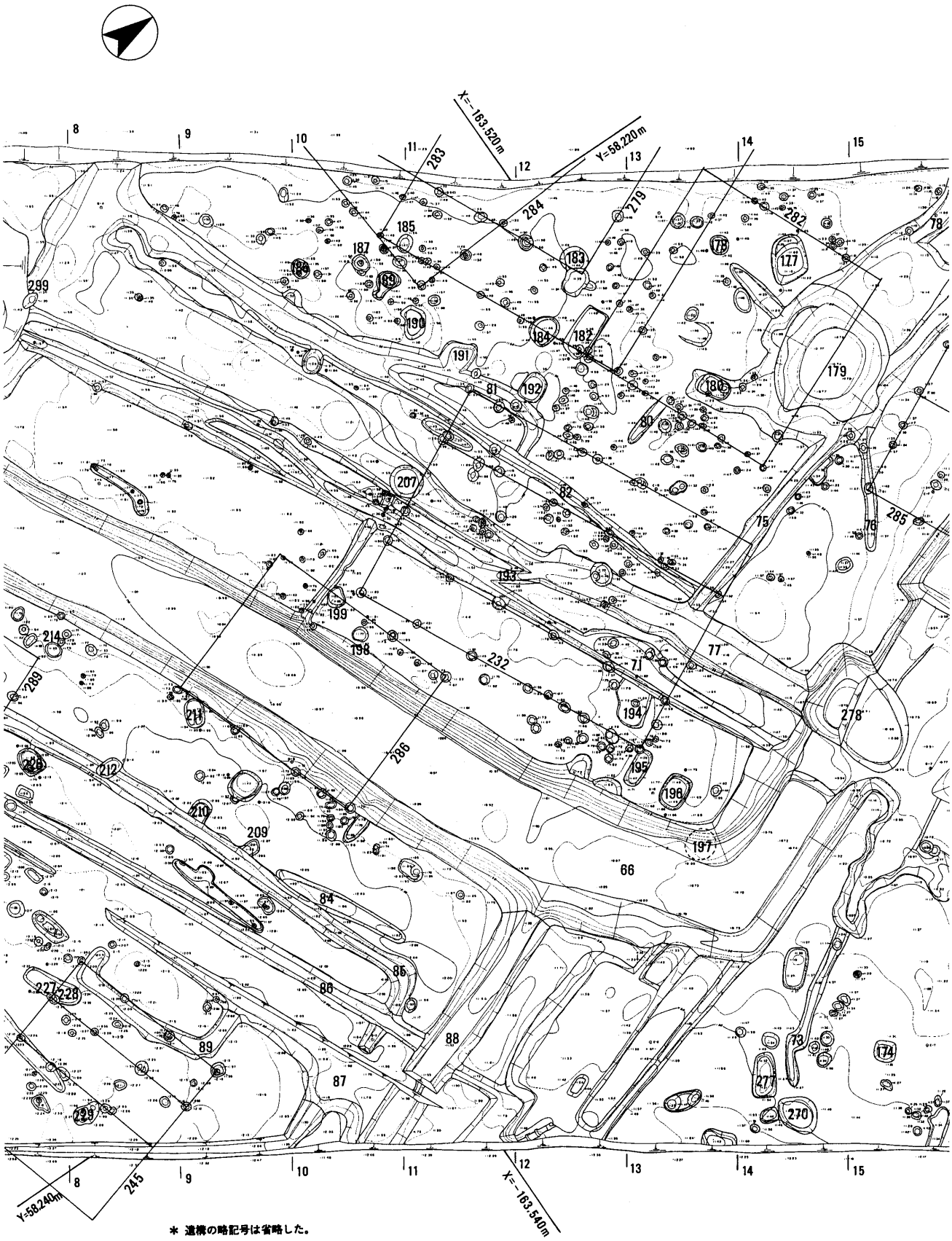
第Ｉ－２図　遺跡周辺地形図（１：5,000　明和町都市計画図）



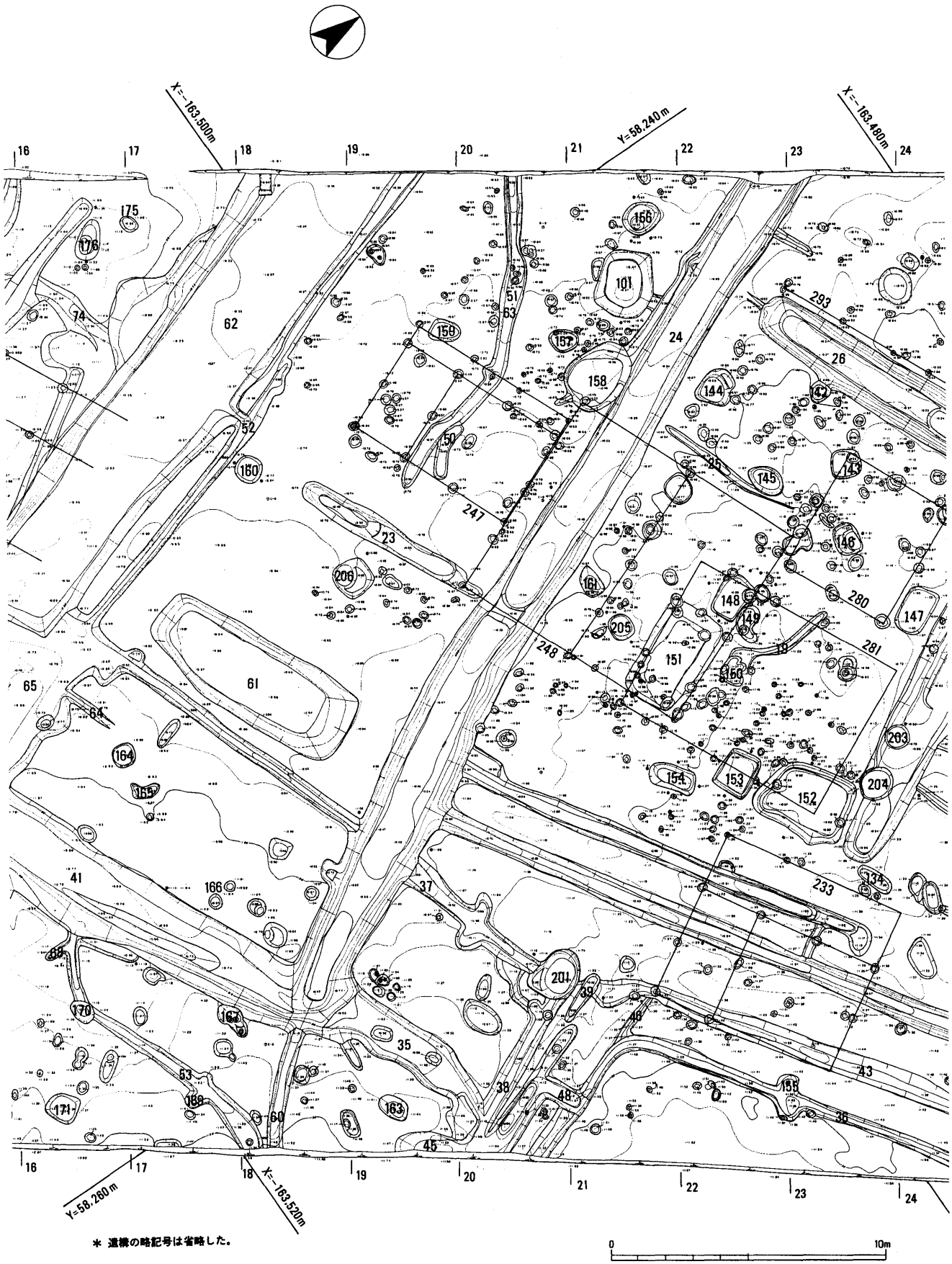
第Ⅰ－３図　事業地内調査区位置図（１：1,000）

＊ 遺構の略記号は省略した。

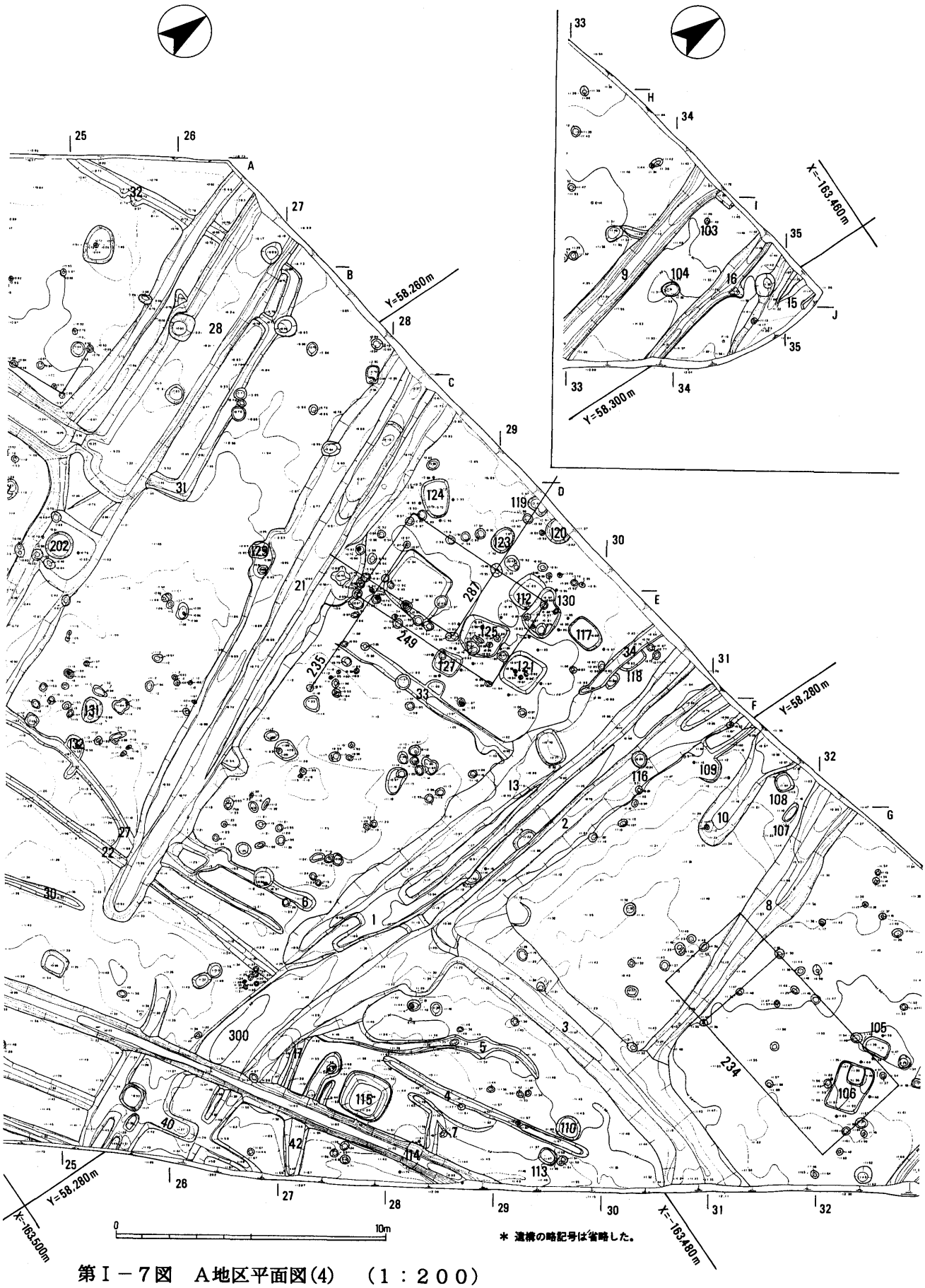
第Ⅰ－４図　Ａ地区平面図(1)　（１：２００）



第Ⅰ－５図　Ａ地区平面図(2)　（１：２００）



第Ⅰ－６図　Ａ地区平面図(3)　（１：２００）



第Ⅰ－７図　A地区平面図(4)　（１：２００）

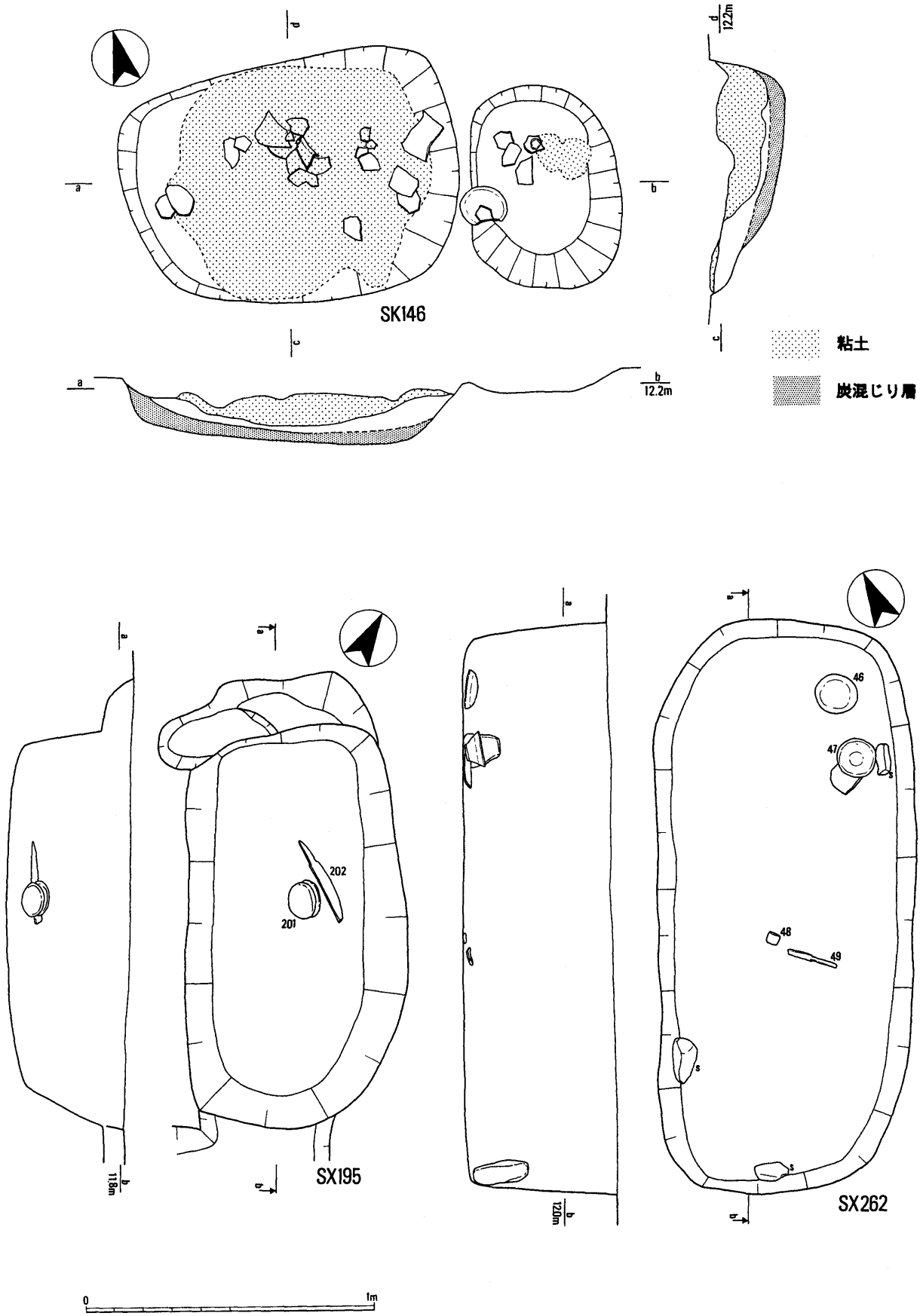
第Ⅰ－８図　Ｂ地区平面図（１：２００）

下では、これら区画の主なものを見ておく。

区画１　検出遺構の中心となるのが区画１である。区画１をめぐる堀は東西約 50 m、南北約 50 mの規模で、方形のプランを呈する。堀は、幅４～５m、深さ 0.8 ～ 1.0 mで、東辺と西辺のそれぞれ南寄りに虎口を有している。堀の内側には土塁の痕跡があり、方形プランの城郭遺構と考えられる。区画内には掘立柱建物が３棟と井戸１基が確認できる。

区画２　区画１東虎口の東側にあたり、南をＳＤ 41、東をＳＤ 24 で囲まれた範囲である。ＳＤ 41 は区画１東虎口の東辺に対し垂直に取り付いており、ＳＤ 24 はＳＤ 41 と直交している。区画２は区画１へと至る通路といえるが、土坑状溝ＳＤ 61 はこれをさらに遮断する機能を果たしている。ＳＤ 23 は区画内を細分割する溝で、その北側には掘立柱建物ＳＢ 247 がある。

区画３　区画２の東にあたる。ＳＤ 26 によって南北に２分割されているが、ＳＤ 26 はＳＤ 24 に接続していないため、その間が通路になっていると考えられる。区画３南部には掘立柱建物ＳＢ 280 や井戸



第Ｉ－９図　個別遺構実測図（１：２０）

遺構番号	性格	時期	地区	グリッド	調査時遺構名	特徴・形状・計測数値など
SD 1	溝	江戸以降	A	F29・G28		
SD 2	溝	江戸以降	A	H27・F30	溝2	
SD 3	溝	江戸以降	A	H28	SD3	
SD 4	溝	江戸以降	A	I28		
SD 5	溝	江戸以降	A	I28		
SD 6	溝	江戸以降	A	G26		
SD 7	溝	江戸以降	A	I・J28		
SD 8	溝	16世紀後半	A	G32	SD1	
SD 9	溝	江戸以降	A	I33		
SD 10	溝	江戸以降	A	F31	SD3	
SD 11	溝	16世紀前半	A	G22、G21	溝11	
SD 12	溝	16世紀前半	A	G19・20		
SD 13	溝	江戸以降	A	G28・H27		開墾溝か
SD 15	溝	12世紀後半	A	H34・J34	SD1	
SD 16	溝	16世紀以降	A	I・J34		
SD 17	溝	江戸以降	A	I27		
SD 18	溝	16世紀代	A	E14	SD1	SD77と同一
SD 19	溝	11世紀後半～	A	E22		
SD 21	溝	16世紀以降	A	E27・D27	SD1、溝21	
SD 22	溝	16世紀以降	A	F24・G25		SD21より新
SD 23	溝	16世紀代	A	D19	溝3	
SD 24	溝	16世紀前半	A	C21・B22・F19・H18	溝24	
SD 25	溝	不明	A	C22		
SD 26	溝	16世紀後半	A	C24	SD1. 溝26	
SD 27	溝	江戸以降	A	F25		
SD 28	溝	16世紀代	A	D25・E24	SD1、溝28	
SD 29	溝	16世紀前半	A	F24	SD2	SD28に含まれる
SD 30	溝	江戸以降	A	G24・H25		
SD 31	溝	江戸以降	A	C26		
SD 32	溝	江戸以降	A	A25		SD30より古
SD 33	溝	江戸以降	A	E27		
SD 34	溝	江戸以降	A	E30		
SD 35	溝	16世紀前半	A	H19	SD1、SD35	SD41と同一
SD 36	溝	16世紀代	A	I21	SD1	
SD 37	溝	江戸以降	A	G19		SD24より新
SD 38	溝	江戸以降	A	I20		SD37と対応
SD 39	溝	不明	A	H21		
SD 40	溝	16世紀以降	A	I25		
SD 41	溝	江戸以降	A	G16・H17		
SD 42	溝	江戸以降	A	J27	SD4	
SD 43	溝	16世紀以降	A	H21・22		
SD 45	溝	不明	A	I19		
SD 46	溝	16世紀以前	A	H21		SD36より古。
SD 48	溝	16世紀以降	A	I20		
SD 50	溝	不明	A	C19		
SD 51	溝	不明	A	C20		
SD 52	溝	不明	A	D17		
SD 53	溝	16世紀代	A	H16・I17	SD1	
SD 60	溝	不明	A	I18		
SD 61	土坑状溝	16世紀前半	A	E18	SD1	
SD 62	堀	16世紀代	A	D16、E16	SD1	
SD 63	溝	江戸以降	A	A20		
SD 64	溝	江戸以降	A	E16		
SD 65	溝	不明	A	F15		
SD 66	堀	16世紀代	A	E9、D8、F12	溝66	
SD 68	溝	不明	A	H16		
SD 71	溝	12世紀後半	A	D10・C9・E12・D11		土器群あり。
SD 73	溝	不明	A	H14		
SD 74	溝	16世紀以降	A	B16		SD75より新。
SD 75	溝	16世紀代	A	C14	SD1	
SD 76	溝	不明	A	C15		
SD 77	溝	16世紀前半	A	E13・14	SD2	
SD 78	溝	不明	A	A15		

第1表　本郷遺跡（第2次）遺構一覧(1)

遺構番号	性　格	時　期	地区	グリッド	調査時遺構名	特徴・形状・計測数値など
ＳＤ 80	溝	不明	Ａ	Ｃ１３		
ＳＤ 81	溝	１６世紀代	Ａ	Ｃ１１		
ＳＤ 82	溝	江戸以降	Ａ	Ｃ１１		
ＳＤ 83	溝	江戸以降	Ａ	Ａ０	ＳＤ	
ＳＤ 84	溝	13世紀中葉以降	Ａ	Ｇ１０		
ＳＤ 85	溝	１２世紀後半	Ａ	Ｄ４・Ｅ５		
ＳＤ 86	溝	江戸以降	Ａ	Ｇ８・９		
ＳＤ 87	溝	江戸以降	Ａ	Ｈ９		
ＳＤ 88	溝	16世紀以降	Ａ	Ｉ１１		
ＳＤ 89	溝	不明	Ａ	Ｈ９	ＳＤ２	
ＳＤ 90	溝	平安後期～	Ａ	Ｆ５・Ｇ６・Ｈ７・Ｉ７		
ＳＤ 91	溝	鎌倉前期	Ａ	Ｈ５	ＳＤ１・２	
			Ａ	Ｉ６		
ＳＤ 92	溝	不明	Ａ	Ｆ５・Ｇ４・Ｇ５		
ＳＤ 93	溝	江戸以降	Ａ	Ｆ０・Ｇ１・２		竹林の区画溝
ＳＤ 94	溝	１５世紀後半以降	Ａ	Ｉ２	ＳＤ１	
ＳＤ 95	溝	１３世紀後半	Ａ	Ｉ１	ＳＤ１	
ＳＤ 96	溝	１２世紀後半	Ａ	Ｈ４		
ＳＤ 97	溝	江戸以降	Ａ	Ｇ３		
ＳＤ 98	溝	１２世紀後半以降	Ａ	Ｆ３		
ＳＤ 99	溝	１６世紀前半	Ａ	Ｇ３	ＳＤ１	
ＳＤ 100	溝	江戸以降	Ａ	Ｂ７	ＳＤ１	ＳＤ７１の上部。包含層相当。
ＳＫ 101	土坑	奈良後半	Ａ	Ａ２１・Ｂ２１	ＳＫ１	
ＳＫ 102	土坑	13世紀前半	Ａ	Ｉ３５	ＳＫ	ＳＤ15の上部に相当
ＳＫ 103	土坑	１６世紀代	Ａ	Ｉ３４	ＳＫ	
ＳＫ 104	土坑	１６世紀代	Ａ	Ｉ３４	ｐｉｔ２	
ＳＫ 105	土坑	１２世紀後半	Ａ	Ｉ３２	ＳＫ２	
ＳＫ 106	土坑	１６世紀代	Ａ	Ｉ３２	ＳＫ１	
ＳＫ 107	土坑	１６世紀以降	Ａ	Ｇ３１	ＳＫ１	
ＳＫ 108	土坑	１６世紀以降	Ａ	Ｆ３１	ＳＫ１	
ＳＫ 109	土坑	１６世紀以降	Ａ	Ｆ３'１	ＳＫ２	
ＳＫ 110	土坑	１６世紀以降	Ａ	Ｊ２９	ＳＫ１	
ＳＫ 113	土坑	１６世紀以降	Ａ	Ｊ２９	ＳＫ３	
ＳＸ 114	落ち込み	１６世紀前半	Ａ	Ｊ２８	ＳＸ１	ＳＤ１２の上層部に相当。
ＳＫ 115	土坑	１６世紀前半	Ａ	Ｉ２７	ＳＫ１	
ＳＫ 116	土坑	１６世紀以降	Ａ	Ｆ３０	ｐｉｔ３	
ＳＫ 117	土坑	不明	Ａ	Ｅ２９	ＳＫ２	
ＳＫ 118	土坑	江戸以降	Ａ	Ｅ３０	ＳＫ１	
ＳＫ 119	土坑	不明	Ａ	Ｄ２９	ＳＫ１	
ＳＫ 120	土坑	不明	Ａ	Ｄ２９	ＳＫ２	
ＳＫ 121	土坑	16世紀後半	Ａ	Ｅ２９	ＳＫ３	粘土含む　土器窯関連か？
ＳＫ 122	土坑	１６世紀以降	Ａ	Ｅ２９	ＳＫ４	
ＳＫ 123	土坑	江戸以降	Ａ	Ｄ２９	ＳＫ３	
ＳＫ 124	土坑	近代	Ａ	Ｄ２８	ＳＫ１	
ＳＫ 125	土坑	１６世紀以降	Ａ	Ｅ２８	ＳＫ１	粘土含む　土器窯関連か？
ＳＫ 127	土坑	１６世紀代	Ａ	Ｅ２８	ＳＫ２	ＳＤ２１より新
ＳＫ 129	土坑	１６世紀代	Ａ	Ｄ２６	ＳＫ１	
ＳＫ 130	土坑	不明	Ａ	Ｅ２９	ＳＫ１	粘土含む　土器窯関連か？
ＳＫ 131	土坑	不明	Ａ	Ｆ２５	ＳＫ１	
ＳＫ 132	土坑	不明	Ａ	Ｆ２５	ＳＫ２	
ＳＫ 134	土坑	不明	Ａ	Ｇ２３	ＳＫ１	
ＳＫ 142	土坑	江戸以降	Ａ	Ｂ２３	ＳＫ１	
ＳＫ 143	土坑	不明	Ａ	Ｃ２３	ＳＫ１	
ＳＫ 144	土坑	不明	Ａ	Ｃ２２	ＳＫ１	
ＳＫ 145	土坑	不明	Ａ	Ｃ２２	ＳＫ２	
ＳＫ 146	焼土坑	１２世紀後半	Ａ	Ｄ２３	ＳＫ１	上部に粘土充満。土器窯。
ＳＫ 147	土坑	16世紀代	Ａ	Ｄ２４	ＳＫ２	
ＳＫ 148	土坑	１２世紀代	Ａ	Ｄ２２	ＳＫ１	
ＳＫ 149	土坑	不明	Ａ	Ｄ２２	ＳＫ２	ＳＫ１４８より新
ＳＫ 150	土坑	不明	Ａ	Ｅ２２	ＳＫ１	
ＳＫ 151	土坑	１２世紀後半	Ａ	Ｅ２１	ＳＫＳＫ２	ＳＢ２４８に伴う南東隅土坑
ＳＫ 152	土坑	１６世紀前半	Ａ	Ｆ２３	ＳＫ１	
ＳＫ 153	土坑	１６世紀代	Ａ	Ｆ２２	ＳＫ１	

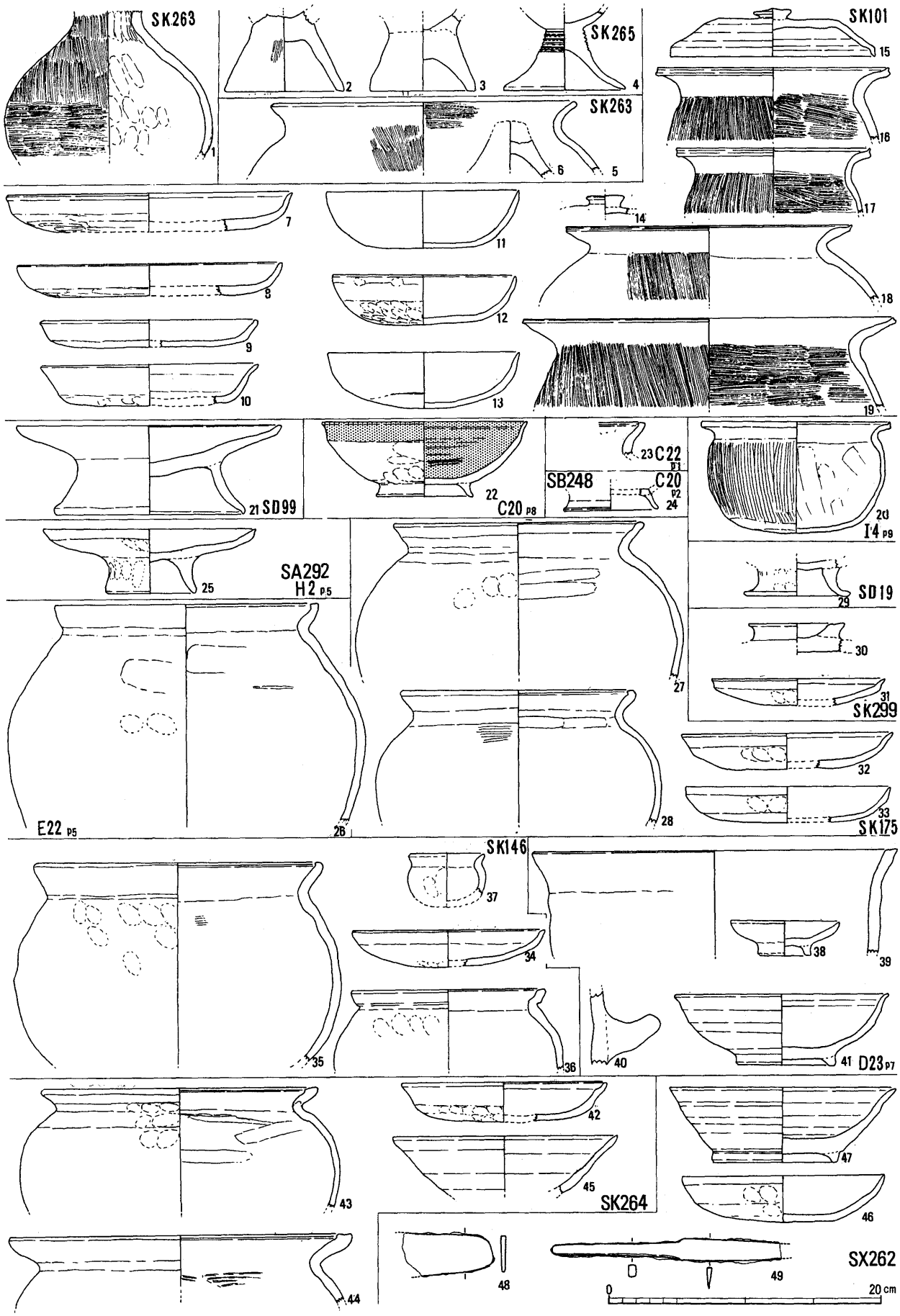
第２表　本郷遺跡（第２次）遺構一覧(2)

遺構番号	性 格	時 期	地区	グリッド	調査時遺構名	特徴・形状・計測数値など
SK 154	土坑	16世紀後半	A	F21	SK1	炭混じり　土器窯？
SK 155	土坑	16世紀代	A	I23	SK1	
SK 156	土坑	不明	A	A21	SK2	
SK 157	土坑	16世紀以降	A	B21	SK1	
SK 158	土坑	江戸以降	A	C21	SK1	
SK 159	土坑	不明	A	B19	SK	
SE 160	井戸	16世紀後半	A	C18	SK1	
SK 161	土坑	16世紀代	A	D21	SK1	未完掘
SK 163	土坑	16世紀以降	A	I19	SK3	
SK 164	土坑	不明	A	F17	SK2	
SK 165	土坑	不明	A	F17	SK3	
SK 166	土坑	不明	A	G17	SK1	
SK 167	土坑	不明	A	H17	SK1	
SK 169	土坑	不明	A	I17	SK2	
SK 170	土坑	16世紀前半	A	H16	SK1	
SK 171	土坑	12世紀後半	A	I16	SK1	
SK 174	土坑	不明	A	I15	SK1	
SK 175	土坑	12世紀後半	A	A17	SK	
SK 176	焼土坑	12世紀後半	A	A16	SK1	平面三角形。土器窯？
SK 177	土坑	16世紀後半	A	A14	SK1	
SK 178	土坑	不明	A	A13	SK1	
SK 179	土坑	江戸以降	A	B14	SK1	
SK 180	土坑	16世紀代	A	C13	SK2	
SK 182	土坑	16世紀代	A	B12	SK1	
SK 183	土坑	不明	A	B12	SK3	
SK 184	土坑	12世紀後半	A	B12	SK2	
SK 185	土坑	12世紀後半	A	A10	SK1	
SK 186	土坑	不明	A	A10	SK5	
SK 187	土坑	不明	A	A10	SK4	
SK 189	土坑	16世紀代	A	A10	SK3	
SK 190	土坑	12世紀代	A	B11	SK	
SK 191	土坑	13世紀代	A	B11	SK2	
SK 192	土坑	16世紀前半	A	C12	SK1	SD81より新
SK 193	土坑	16世紀代	A	D11	SK1	SD71より新
SK 194	土坑	12世紀後半	A	E13	SK1	SB232に伴う南東隅土坑。
SX 195	土壙墓	12世紀後半	A	F13	SK2	小刀、土師器小皿2枚を副葬。
SK 196	土坑	12世紀後半	A	F13	SK1	
SK 197	土坑	近現代	A	G13	SK1	
SK 198	土坑	16世紀代	A	D10	SK1	
SK 199	土坑	12世紀代	A	E10	SK1	
SE 201	井戸	12世紀後半	A	H20	SK1	土器多量。
SE 202	井戸	16世紀前半	A	D24	SE3	
SE 203	井戸	16世紀代	A	F24	SE2	
SE 204	井戸	16世紀代	A	F23	SE1	
SE 205	井戸	16世紀代	A	E21	SK1	
SE 206	井戸	16世紀前半	A	D19	SE4	
SE 207	井戸	16世紀代	A	C10	SE7	
SE 208	井戸	13世紀前半	A	C6	SE	
SK 209	土坑	16世紀代	A	G9	SK1	
SK 210	土坑	不明	A	G9	SK2	
SK 211	土坑	13世紀代	A	E9	SK1	
SK 212	土坑	13世紀後半	A	F8	SK1	
SK 213	土坑	13世紀中葉	A	G3	SK1	
SK 214	土坑	不明	A	E7	pit10	
SK 215	土坑	13世紀前半	A	E6	SK1	SB290に伴う南東隅土坑。
			A	E5	SK2	
SK 216	土坑	13世紀中葉	A	F6・G6	SK1	土器群良好。棒状土製品出土。
SK 217	土坑	不明	A	F4	SK2	
SK 218	土坑	不明	A	F4	SK1	
SK 219	土坑	12世紀代	A	F4	SK3	
SK 220	土坑	不明	A	F4	pit10	
SK 221	焼土坑	13世紀後半	A	G5	SK1	土器焼成坑？
SK 222	土坑	13世紀中葉	A	G4	SK1	

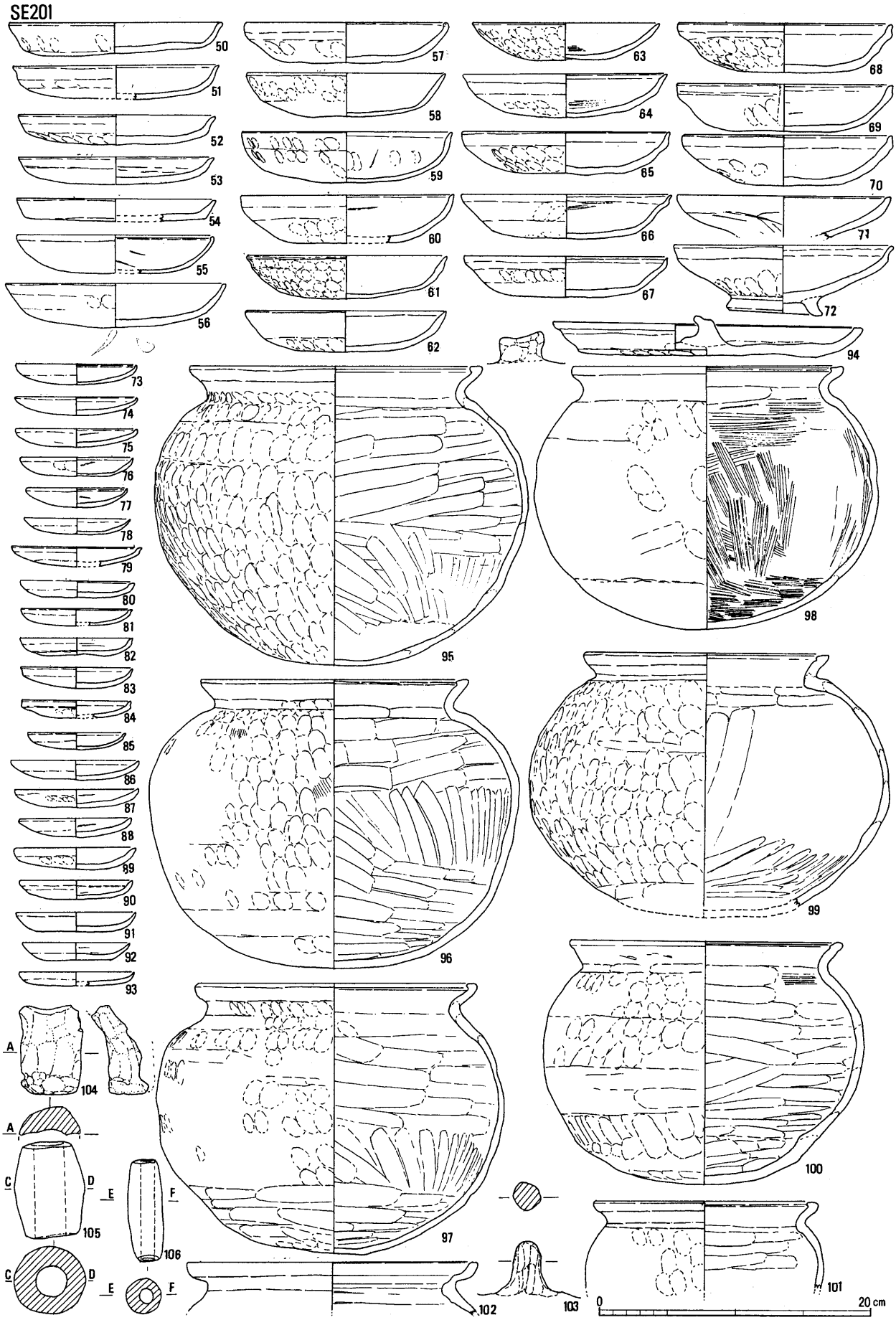
第3表　本郷遺跡（第2次）遺構一覧(3)

遺構番号	性格	時期	地区	グリッド	調査時遺構名	特徴・形状・計測数値など
SK 223	焼土坑	13世紀中葉	A	G4	SK2	土器窯？
SK 224	土坑	13世紀前半頃	A	H14	SK1	
SK 225	土坑	13世紀中葉	A	I5	SK1	
SK 226	土坑	不明	A	F7	SK1	
SK 227	土坑	不明	A	H7	SK2	
SK 228	土坑	12世紀後半	A	H7	SK1	
SK 229	土坑	13世紀代	A	I8	SK1	
SB 231	掘立柱建物	奈良～平安初	A	H4，G・H・I5，H6、		N16° W 3間(5.6m)×2間(3.2m)
SB 232	掘立柱建物	12世紀後半	A	D12、E13ほか		N26° W 5間(11.6m)×4間(8.3m) SK194が伴う。
SB 233	掘立柱建物	12世紀以降	A	G22、H23ほか	H2－pit6，G22－pit6	N31° W 3間(7.0m)×3間(6.4m)
SB 234	掘立柱建物	16世紀後半	A	H31～32，I30～31		N9° W 4間(8.8m)×2間(3.7m)
SA 235	柱列	16世紀代	A	E27、D28	D27－pit1	N23° W 3間(6.4m)
SB 245	掘立柱建物	13世紀代	A	H8、I9ほか	I9－pit2ほか	N22° W 3間(6.2m)×4間(7.0m)
SB 246	掘立柱建物	13世紀代	A	H2・3ほか	I1－pit3	N10° W 2間(4.3m)×4間(7.5m)
SB 247	掘立柱建物	16世紀以降	A	C19、D20ほか	C19－pit6	N23° W 3間(6.4m)×2間(3.6m)＋北庇1間(0.6m)
SB 248	掘立柱建物	12世紀後半	A	E20・21ほか	C20－pit2ほか	N22° W 4間？(9.0m)×4間(8.0m) SK151が伴う。
SB 249	掘立柱建物	16世紀代	A	D28・E29ほか		N22° W 3間(6.0m)×1間(3.6m)
SK 250	土坑	13世紀前半	A	F6・G6	SK1	SB289に伴う南東隅土坑。
SK 251	土坑	13世紀中葉	A	G3	SK2	棒状土製品出土。
SK 252	土坑	12世紀後半以降	A	H4	SK3	
SK 254	土坑	平安前半	A	H4・I4	SK1	
SK 255	土坑	不明	A	I3	SK2	
SK 257	土坑	12世紀代	A	I1	SK1	
SK 259	土坑	不明	A	H3	SK2	
SK 260	土坑	不明	A	G0	SK1	
SK 261	土坑	13世紀後半	A	F0	SK1	
SX 262	土壙墓	12世紀後半	A	D2・E2	SX1	山茶椀・土師器皿・刀子ほかを副葬。
SK 263	土坑	弥生後期	A	D0	SK1	
SK 264	土坑	12世紀後半	A	D0	SK2	
			A	E0	SK1	
SK 265	土坑	弥生後期	A	A1	SK1	
SD 266	溝	江戸以降	A	E2	SD1	
SK 267	土坑	不明	A	A4・B4	SK1	
SK 270	土坑	12世紀代	A	I14	SK1	
SK 273	土坑	13世紀代	A	G3	SK7	
SK 277	土坑	不明	A	I14	SK2	
SK 278	土坑	16世紀代	A	E14	SK1	
SB 279	掘立柱建物	不明	A	A11・12ほか		N25° W 5間(9.9m)×3間(6.6m)以上
SB 280	掘立柱建物	16世紀代	A	C・D23ほか		N24° W 2間(4.2m)×2間(4.7m)
SB 281	掘立柱建物	不明	A	E22・23ほか		N22° W 4間(8.1m)×3間(6.1m)
SB 282	掘立柱建物	不明	A	A・B13ほか		N24° W 4間(7.5m)×4間？(8.0m)
SB 283	掘立柱建物	不明	A	A11・B12		N25° W 5間(9.9m)×3間(6.6m)以上
SB 284	掘立柱建物	13世紀以降	A	A11・12	A11－pit5	N4° W 2間(4.2m)以上×2間(3.9m)以上
SB 285	掘立柱建物	12世紀後半	A	B16・C15ほか	B15－pit1，B16－pit3	N27° W 1間(2.1m)以上×3間(6.0m)
SB 286	掘立柱建物	12世紀代？	A	E9・10ほか		N19° W 3間(7.4m)×3間？(6.0m)
SB 287	掘立柱建物	16世紀代	A	D29ほか	D29－pit1ほか	N22° W 2間(4.0m)以上×2間(5.2m)以上
SB 288	掘立柱建物	13世紀中葉	A	F4・5ほか	E4－pit2	N23° W 3間(6.2m)×2間(3.3m) 根石あり。
SB 289	掘立柱建物	13世紀前半	A	D5・E6ほか		N22° W 5間(10.9m)×6間(10.6m) SK250が伴う。
SB 290	掘立柱建物	13世紀前半	A	C・D5ほか		N22° W 3間(6.7m)×3間？(5.1m) SK215が伴う。
SB 291	掘立柱建物	奈良・平安	A	I3・4		N1° W 1間(2.4m)以上×1間(2.5m)以上
SA 292	柱列	11世紀後半以降	A	H2ほか	H2－pit5ほか	N13° W 4間(7.0m)
SA 293	柱列	16世紀代	A	B23・24ほか		N24° W 4間(9.4m)×1間(2.0m)
SB 294	掘立柱建物	11世紀後半以降	A	H4・I6ほか	H5－pit1・5ほか	N17° W 4間(9.0m)×3間(6.3m)
SB 295	掘立柱建物	12世紀代	A	F3・G4ほか	G4－pit3・9ほか	N23° W 3間(5.6m)×3間(5.0m)
SB 296	掘立柱建物	12世紀代以降	A	I1ほか	I1－pit2ほか	N10° W 1間(2.0m)以上×1間(2.1m)以上
SK 299	土坑	12世紀後半頃	A	B7	SK1	
SZ 300	道路面	江戸以降	A	I26	検出面	道路面と認識
SD 301	溝	13世紀前半	B		SD1	

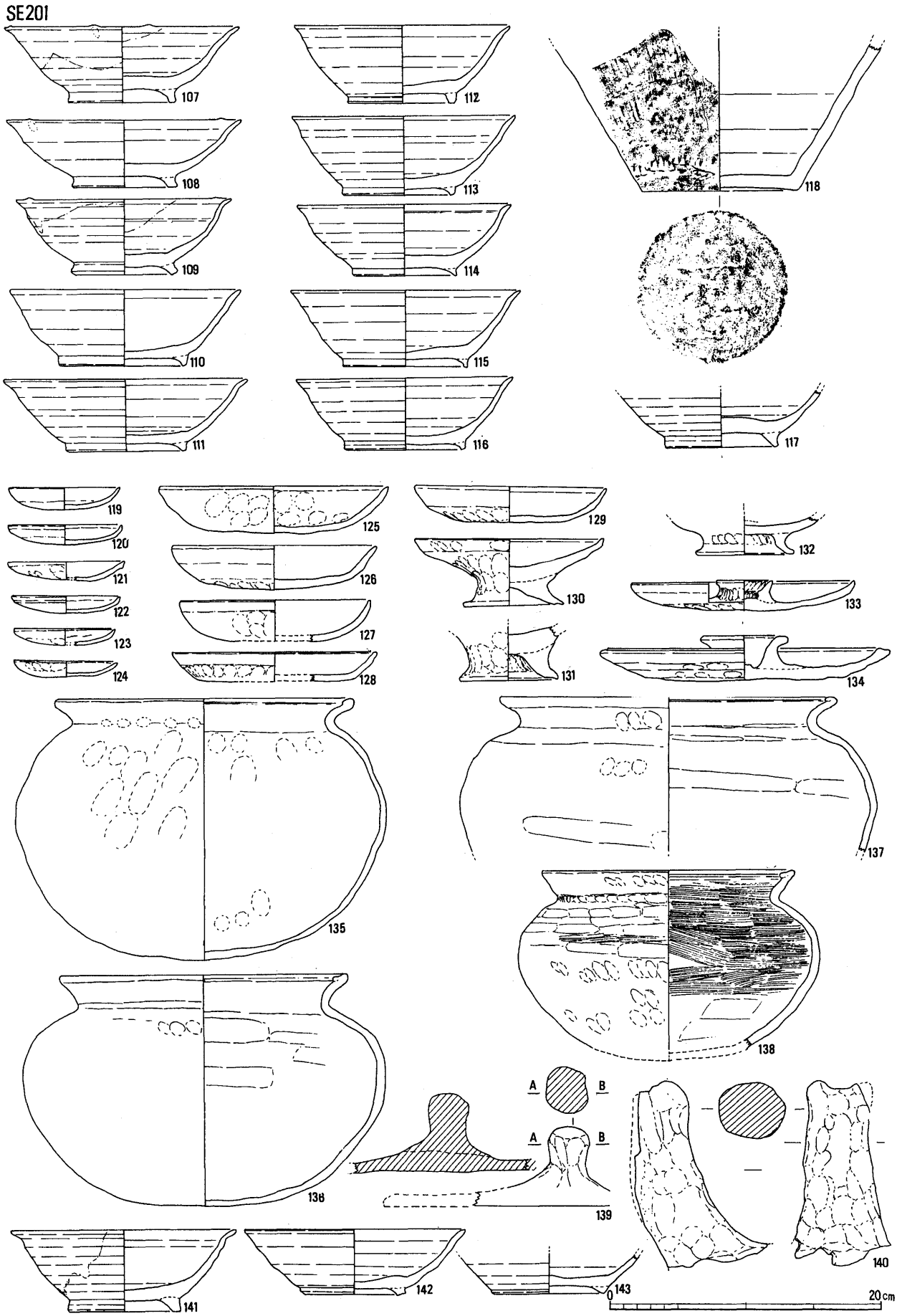
第4表　本郷遺跡（第2次）遺構一覧(4)



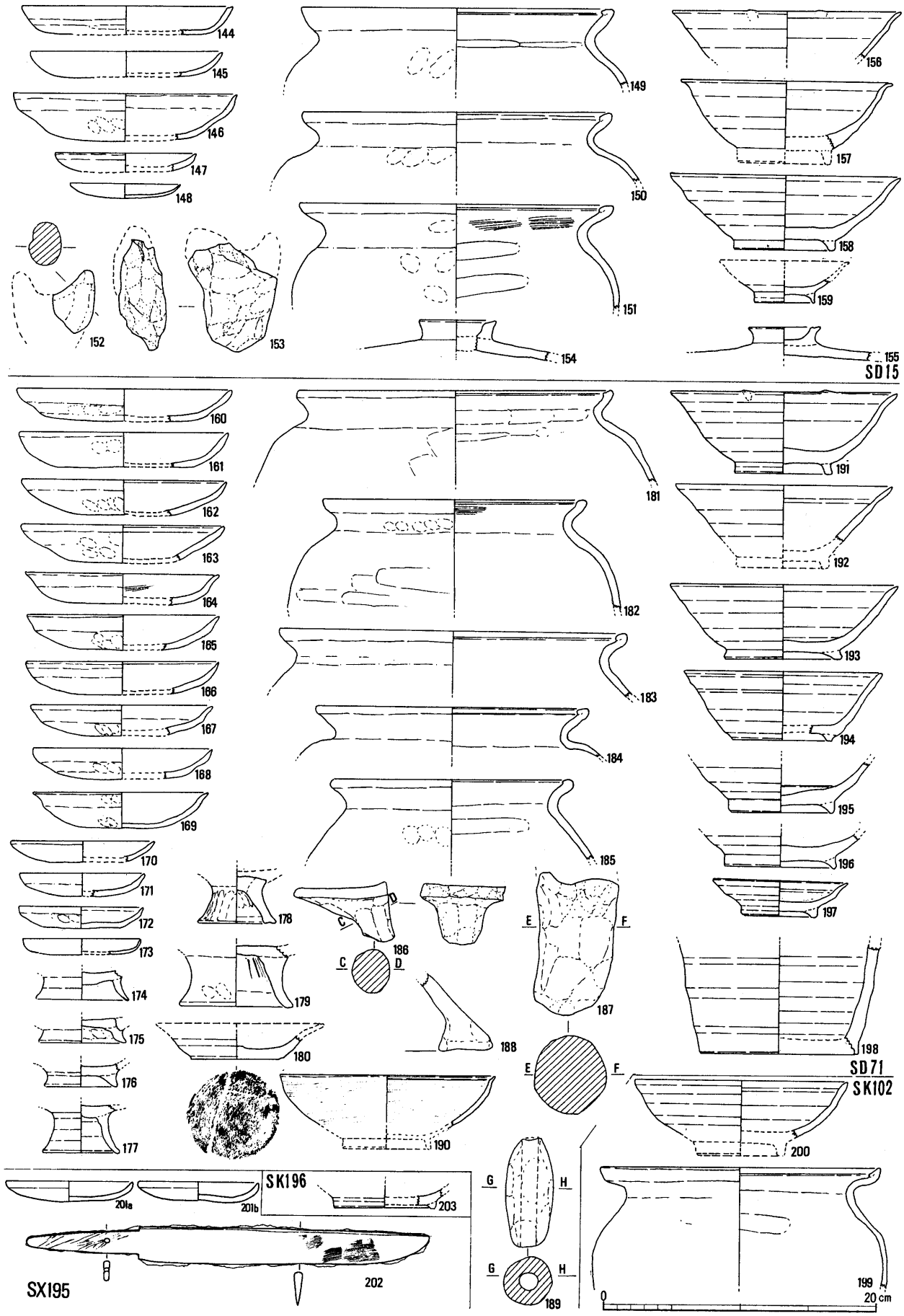
第Ⅰ－10図　出土遺物実測図(1)　（1：4）



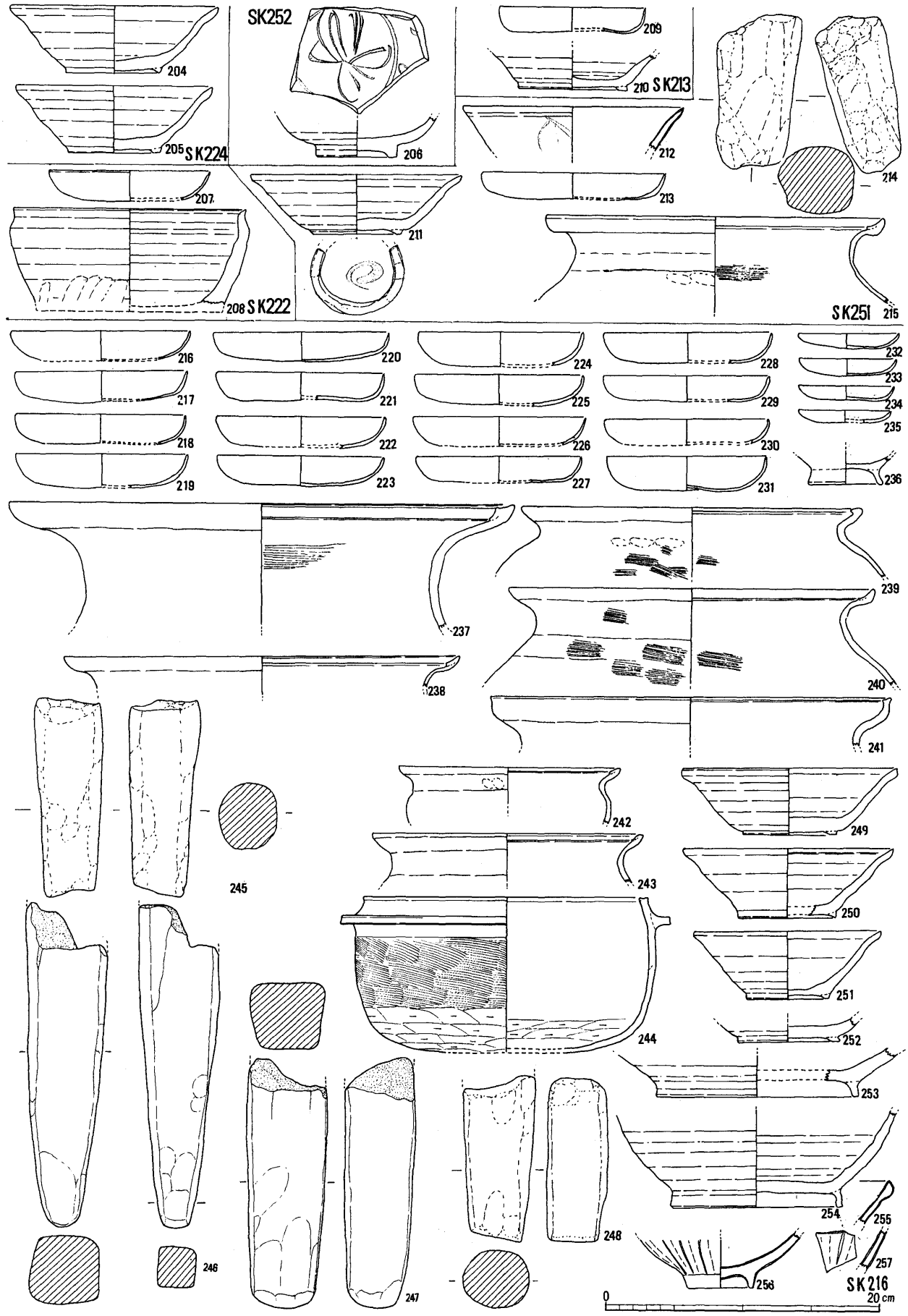
第Ⅰ－11図　出土遺物実測図(2)　（1：4）



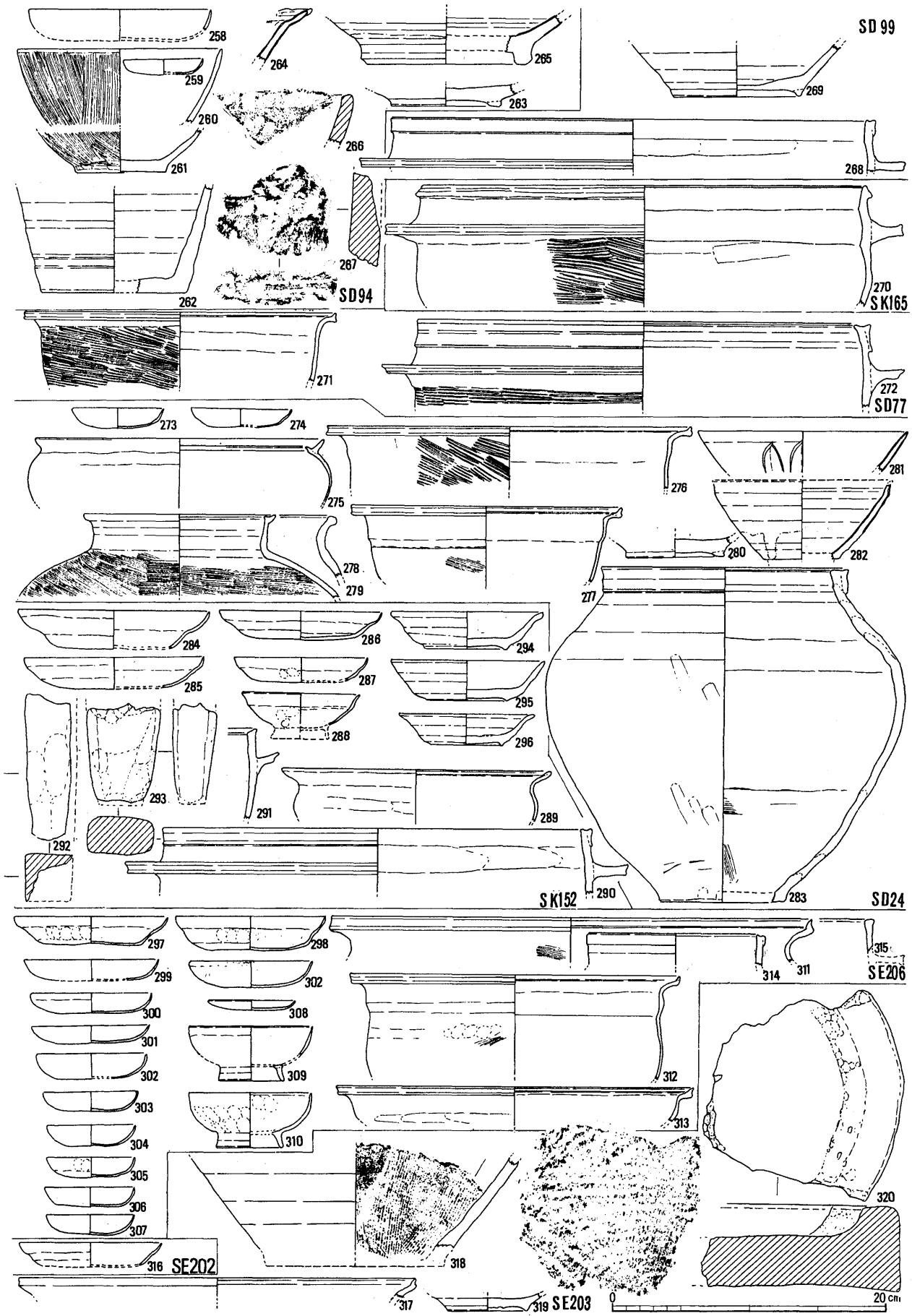
第Ⅰ－12図　出土遺物実測図(3)　（1：4）



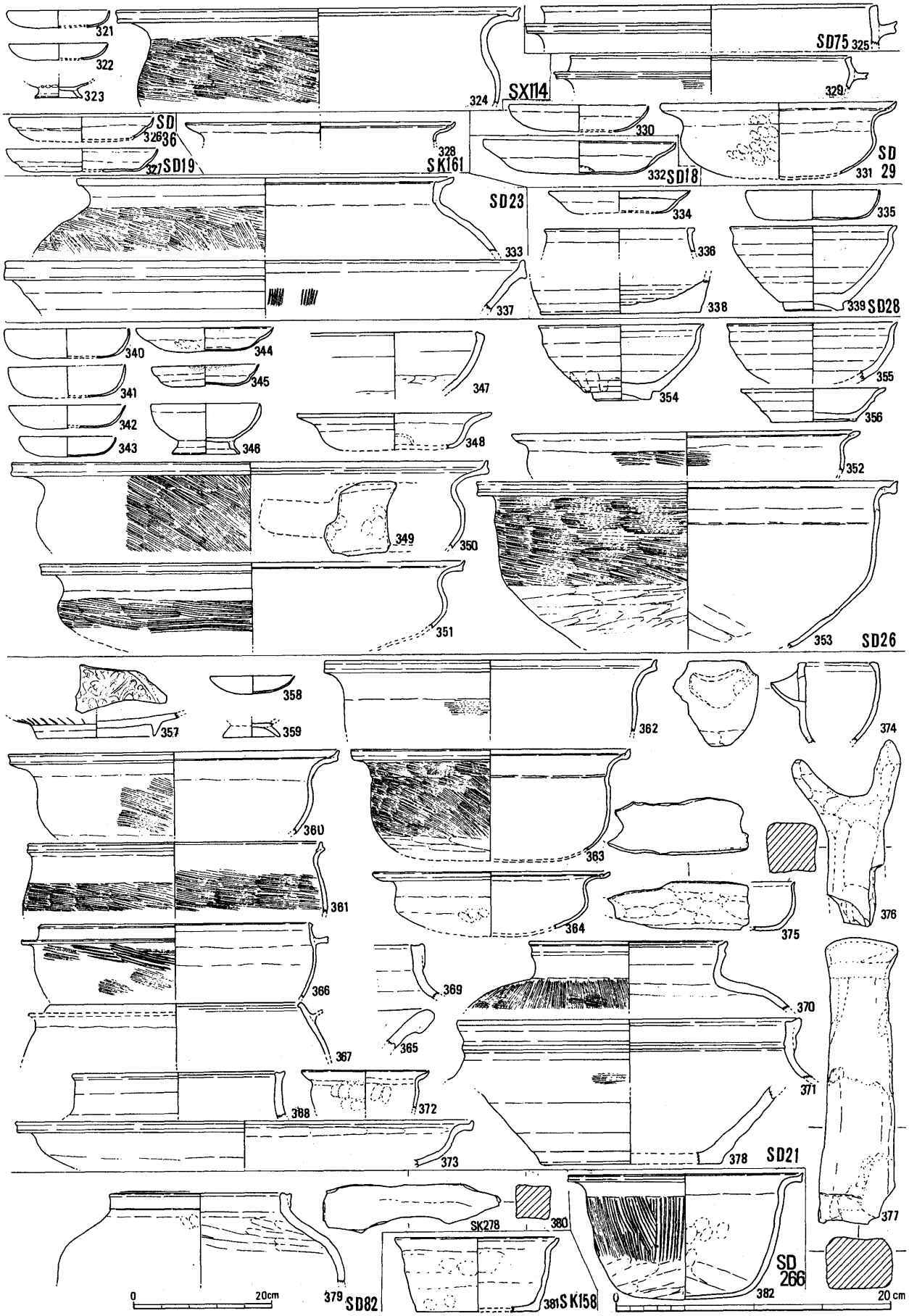
第Ⅰ－13図　出土遺物実測図(4)　（1：4）



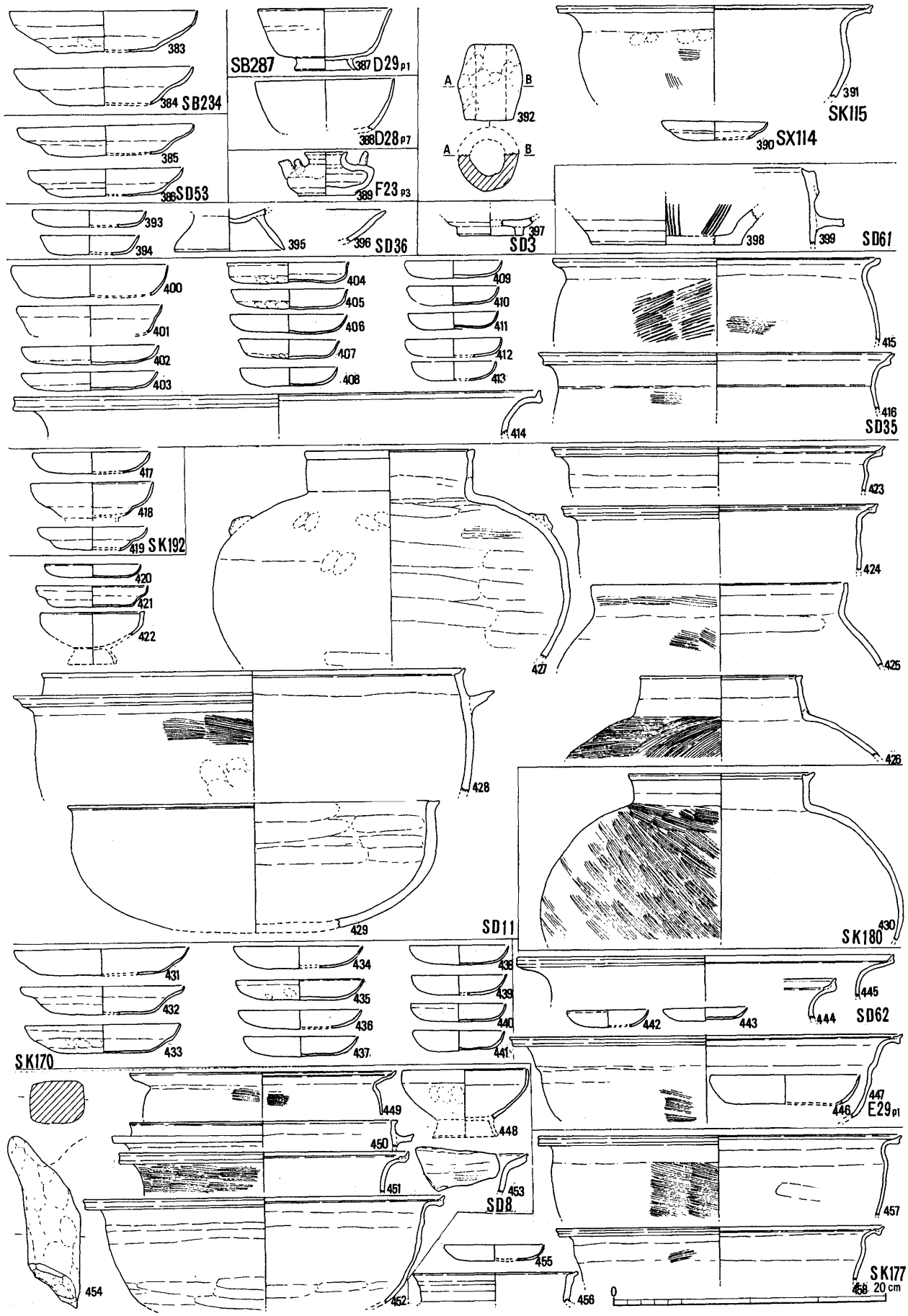
第Ⅰ－14図　出土遺物実測図(5)　（1：4）



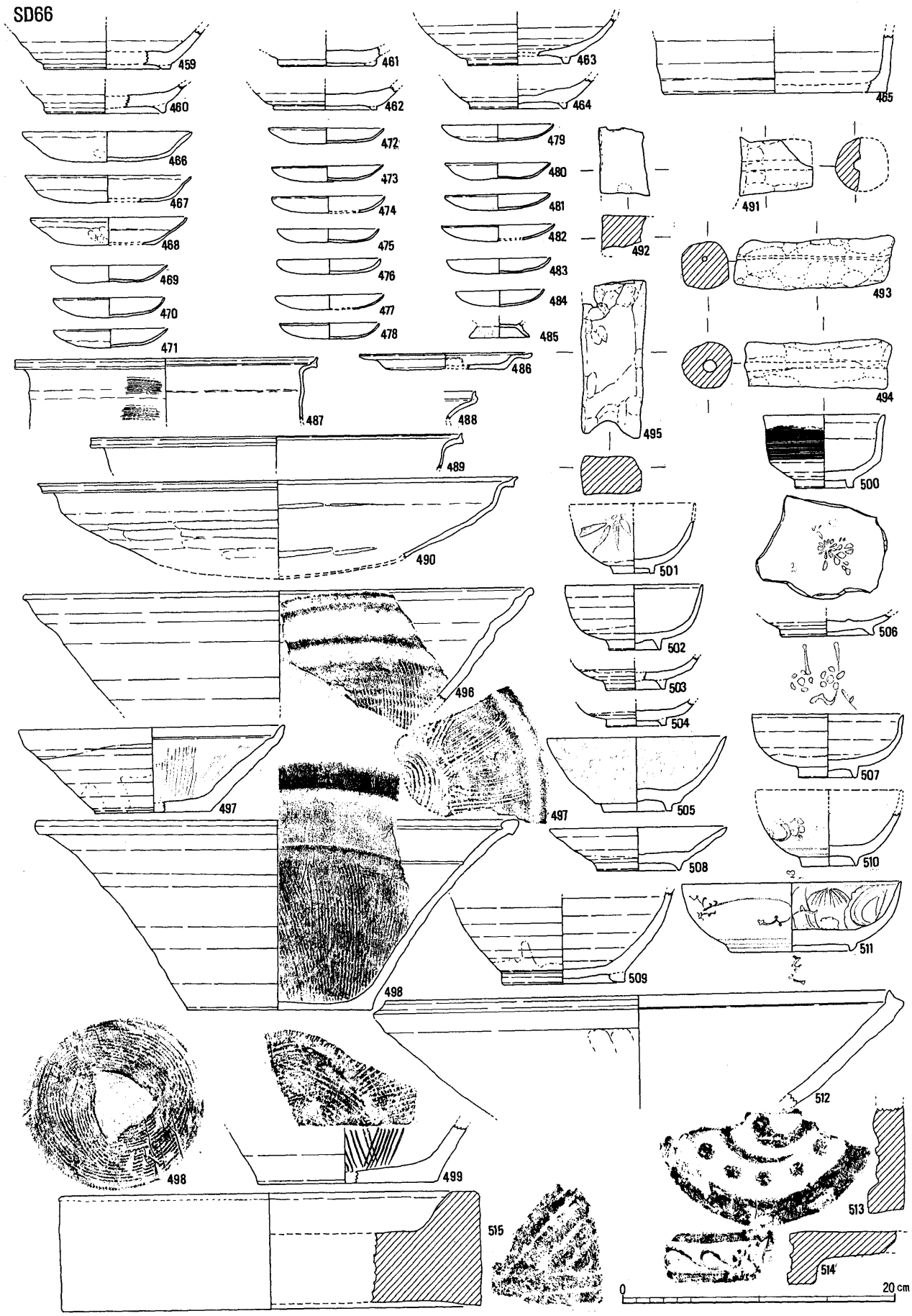
第Ⅰ－15図　出土遺物実測図(6)　（1：4）



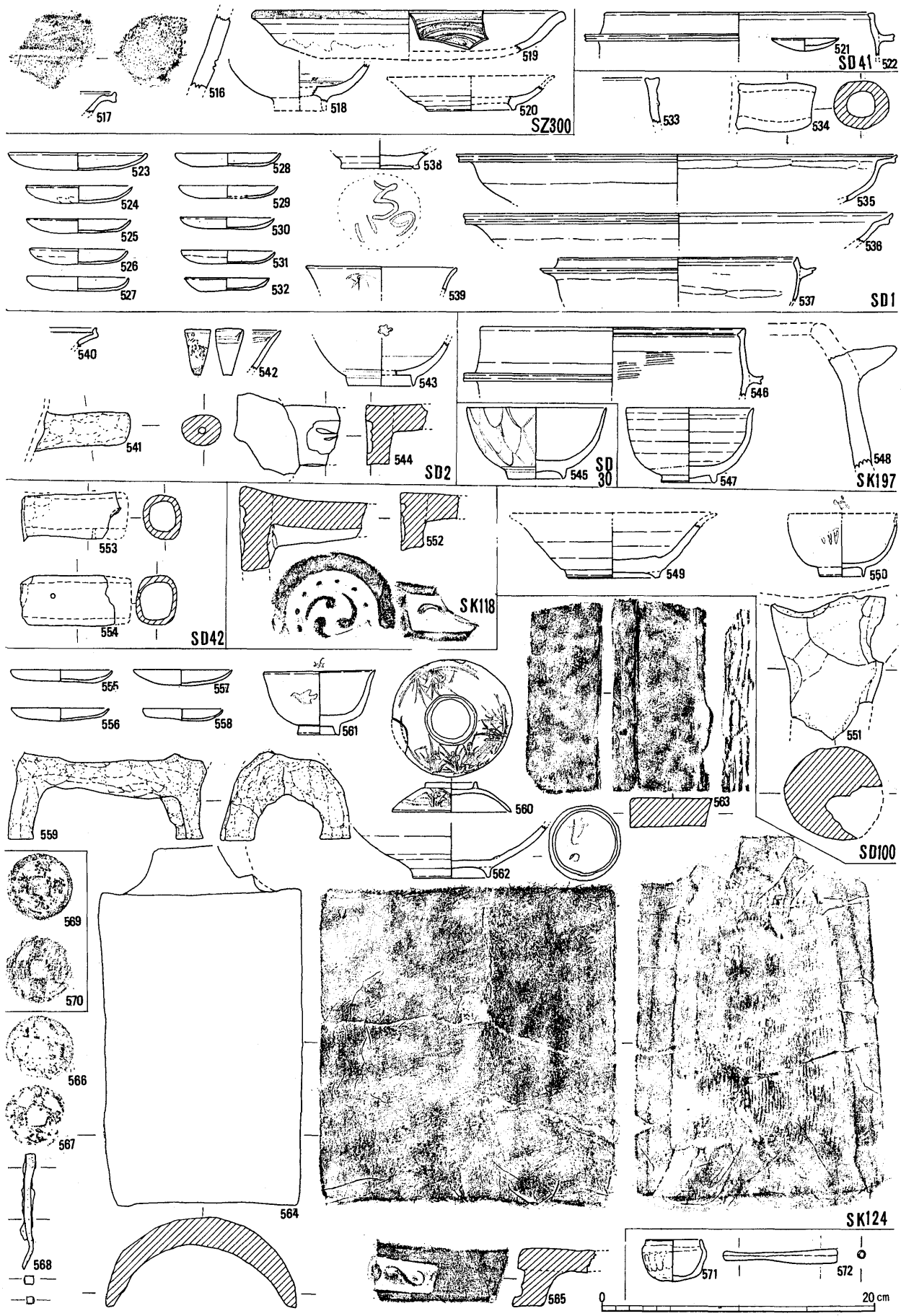
第Ⅰ－16図　出土遺物実測図(7)　(379は１：８、他は１：４)



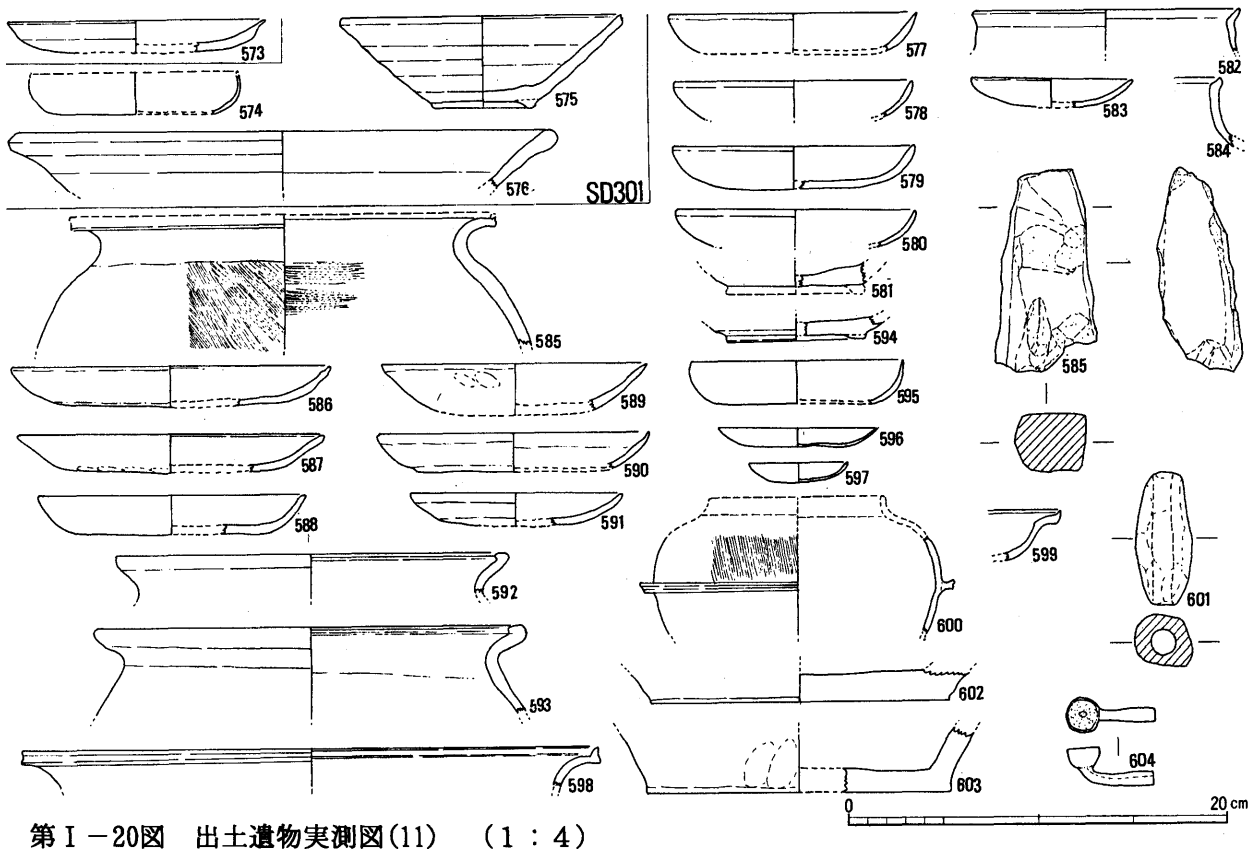
第Ⅰ－17図　出土遺物実測図(8)　（1：4）



第Ⅰ－18図　出土遺物実測図(9)　（1：4）



第Ⅰ－19図　出土遺物実測図(10)　（1：4）



第Ⅰ－20図　出土遺物実測図(11)　（1：4）

ＳＥ 202・203・204 のほか、土器窯の可能性があるＳＫ 154 がある。南部のＳＤ 11・12 が南辺に相当する。区画３北部には柱列ＳＡ 293 がある。

通路　区画３と区画４との間（ＳＤ 20・21 の間）は、遺構がまばらである。そのため、通路として機能していた空間ではないかと考えられる。

区画４　西部をＳＤ 21、東部をＳＤ８、南部を区画３から連続するＳＤ 11・12 で区画された範囲にあたる。掘立柱建物ＳＢ 249・287 や柱列ＳＡ 235 がある。建物は区画の西部に集中し、東部は近世以降の溝で大きく破壊されているため不明である。

e　Ａ地区近世以降の遺構

近世以降の遺構には、溝や土坑がある。これらの遺構は概ね中世後期の土地割りに影響されたものが見られる。中世後期の区画４付近には、中世段階の区画方向とは異なる溝が数条見られ、近世以降に新たに道路が設定されたものと考えられる。

f　Ｂ地区の遺構

Ｂ地区の遺構には、数本の溝と土坑およびピットで、中世前期から近世にかけてのものがある。ピットは、建物としてまとまらない。

4　出土した遺物

出土遺物には、弥生時代後期から近代至るものがあり、その多くは土器類である。

a　Ａ地区弥生時代の遺物

１～６は弥生時代後期前半頃に相当する土器である。本郷遺跡の西隣にある北野遺跡では当該期の良好な集落跡が確認されており、その関係で存在するものであろう。

b　Ａ地区奈良～平安時代の遺物

土器類がある。７～ 19 は奈良時代後半頃、20 は平安時代前半頃、21 ～ 41 は平安時代後葉頃のもの。

c　Ａ地区中世前期の遺物

平安時代末期の 12 世紀代から 13 世紀代にかけてを中世前期とする。中世前期は、12 世紀後半のものと 13 世紀中葉頃のものとに大きく分かれる。13 世紀前半頃のものは少ない。

43 ～ 198 は 12 世紀後半頃、199・200 は 13 世紀初頭頃のものである。46 ～ 48 は土壙墓ＳＸ 262 からの出土。49 は刀子、48 は用途不明の鉄製品で、工具類の副葬が特徴といえる。50 ～ 143 は井戸Ｓ

E 201 からまとまって出土したもので、一括性が高い。50 ～ 118 が遺構下部、119 ～ 143 が遺構上部から出土しているが、時期差はあまり無い。

当遺跡を含む土器生産地近郊に特徴的な遺物として、蓋（94・103・133・134・139）、土製支脚（140・152・153・187・376・454）、台付皿（130・131）などがある。蓋は、95 ～ 102 のような煮沸具（甕）とセットになるもので、それに土製支脚を用いて煮炊きをするものと考えられる。190 は瓦器椀で、伊賀・大和方面からの搬入品である。

201 ～ 257 は、一部 12 世紀代のものが混在するものの、概ね 13 世紀中葉頃のものである。ＳＫ 216 はこの時期のまとまった資料であり、最大の特徴が 245 ～ 248 の棒状土製品である。いずれも破損しており、完形であれば長さ 40 ㎝ほどであろう。棒状土製品は土器窯や土器生産に伴って用いられるもので、13 世紀中葉頃の当地で土器生産がなされていたことを強く示唆するものである。

ｄ　Ａ地区中世後期の遺物

258 ～ 267 は 15 世紀後半頃のもの。264 は青磁大皿、265 は白磁大皿で、優品である。268 ～ 458 は、16 世紀前半から後半にかけての遺物が中心であるが、一部中世前期の遺物のほか、371・373・374・381 など、近世の遺物も含まれている。近世の遺物は、とくにＳＤ 21 出土遺物に集中しているが、ＳＤ 21 の主体は中世後期のものであるため、同じ地点に２時期にわたって溝が掘削されたものと考えられる。

この時期の遺物にも、377 のような数点の棒状土製品が含まれており、土器生産の継続を物語る。

土師器は、当地に淵源を持つ南伊勢系で占められるが、275・367 のように、鍔が短く鍔径よりも体部最大径が大きいものは、当地では比較的稀である。

ｅ　Ａ地区近世以降の遺物

459 ～ 568 は、近世に相当する遺構から出土したもので、掲載遺物には中世前期を中心とした混入遺物も含まれている。近世の南伊勢系土師器を中心に、美濃瀬戸産陶器類、肥前産陶磁器類、瓦類が含まれている。569 ～ 572 は遺構に伴わない遺物である。

ｆ　Ｂ地区出土の遺物

573 ～ 604 はＢ地区出土遺物である。中世前期のものを中心に、近世のものまで含まれている。

５　まとめと検討

本郷遺跡（第２次）発掘調査では、中世前期と後期を中心とした良好な遺跡が確認された。

中世前期は、掘立柱建物で構成される集落遺跡である。12 世紀後半頃が中心で、13 世紀中葉まで続く。とくに 12 世紀後半頃の土器類は良好で、当該時期の土器研究に不可欠な資料となろう。

中世前期での最大の成果は、土器窯と考えられる遺構や、棒状土製品が出土したことである。棒状土製品は土器生産に関係する遺物である。当遺跡を含む旧有爾郷地内とその近隣では、奈良時代前後の土器焼成坑は多数確認されていたが、平安時代中葉以降の実態が明確ではなかった。今回確認した土器窯と考えられる遺構や棒状土製品は、有爾郷における中世の土器生産を実証するものである。

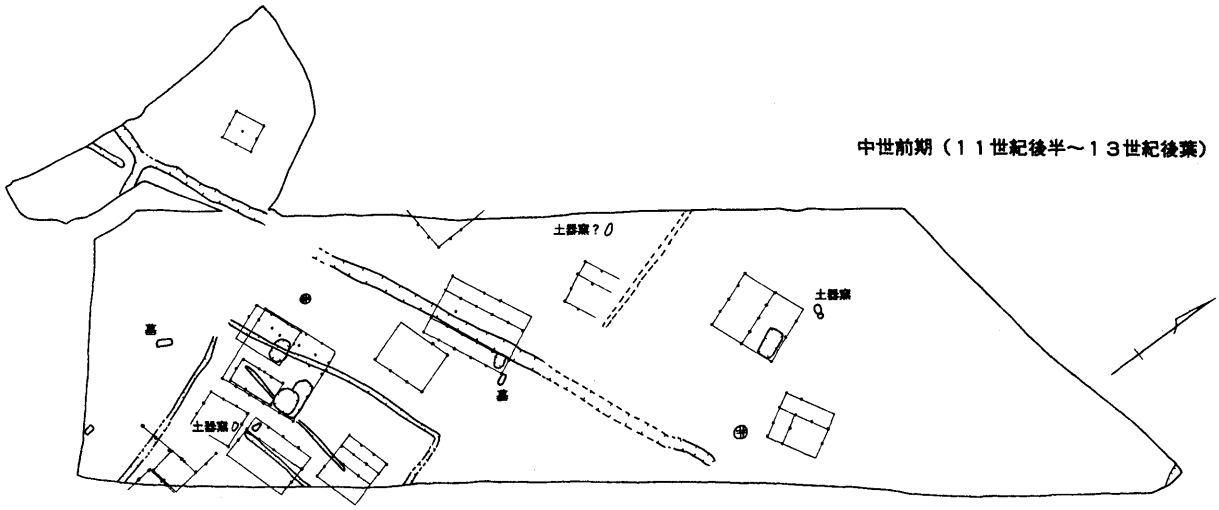
中世後期では、16 世紀代を中心とした城郭遺構とそれに伴う区画が確認された。城郭遺構はおよそ半町（約 54 ｍ）規模で、平面プランは単郭方形の単純なものである。しかし、その虎口に至るまでの導線は複雑で、各所に遮断施設を設けている。小規模とはいえ、強い防御意識が見て取れる。

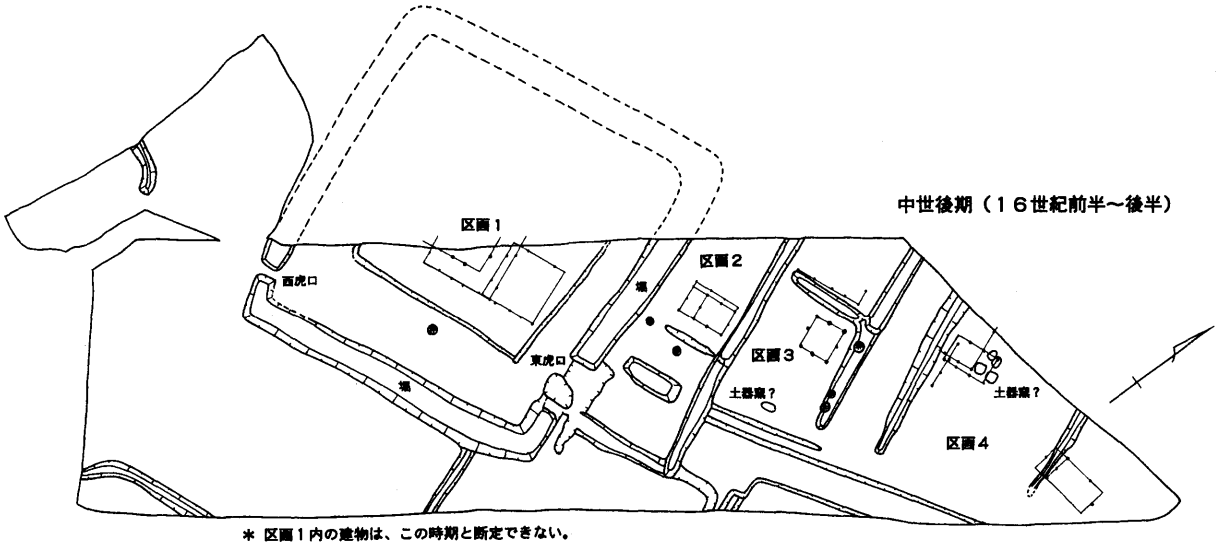
この城郭遺構の形成主体がいかなる人物であったのかを直接示すものは無い。しかし、有爾郷地内であることや、土器窯と考えられるＳＫ 154 の存在、あるいは各所から出土している棒状土製品の存在から、土器生産に関与した人物がこの城郭を築造したと考えられる。土器生産に関わる有力者として想起されるのは、神宮への土器調進を行っていた有爾御器長である。御器長は、小林秀氏の分析によれば在地の有力者として把握が可能である[2]。この城郭遺構形成者の候補として、有爾御器長を想定しておきたいと思う。　　（伊藤裕偉）

＜註＞

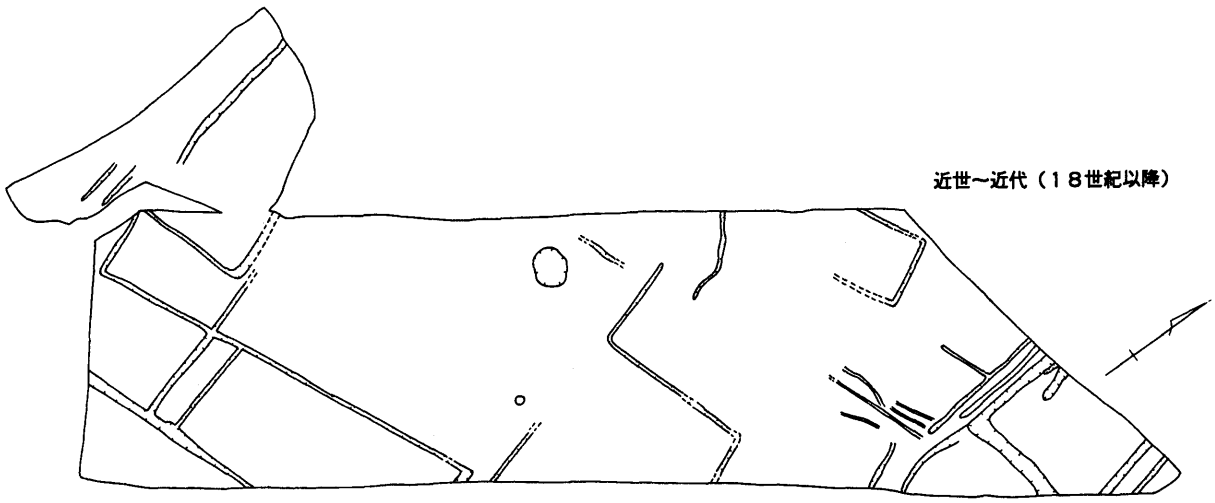
(1)三重県埋蔵文化財センター『平成元年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第１分冊(1990 年)

(2)中世の有爾御器長に関することは、小林秀「中世後期における土器工人集団の一形態～伊勢国有尓郷を素材として～」(『研究紀要』第１号　三重県埋蔵文化財センター　1992 年）を参照のこと。





＊ 区画１内の建物は、この時期と断定できない。



0　50m

第Ｉ－21図　主要遺構変遷図（１：1,000）

Ⅱ　松阪市曲町　曲里中遺跡

1　調査の経過

曲里中遺跡は松阪市曲町字里中・仁王堂ほかに所在する遺跡である。平成３年度の発掘調査は、1991年９月12日から開始し、同年９月30日に終了した。

調査区はＡ～Ｄ区の４ヶ所に分かれており、Ａ地区は300㎡、Ｂ地区60㎡、Ｃ地区300㎡、Ｄ地区200㎡の、合計860㎡であった。

2　位置と環境

曲里中遺跡は曲町集落を中心に広がる遺跡で、標高約14ｍ、現況水田面からの比高約２ｍ前後で、堀坂川が形成した微高地上に位置する。

当遺跡の周辺部は、県営圃場整備事業に伴って多くの遺跡が発掘調査されている。近隣では、弥生時代中期から平安時代にかけての集落遺跡である堂ノ後遺跡・杉垣内遺跡や、多量の二重口縁壺形土器（埴輪）を出土した深長古墳などがある[1]。また、伊勢自動車道のアクセス道路建設に伴って調査された曲遺跡では、11～13世紀頃の大量の土器類が出土しており、なかには三重県下では珍しい墨書人面土器も含まれている[2]。

このように、曲里中遺跡周辺部は、弥生時代以降の良好な遺跡が密集する地域として特筆される。

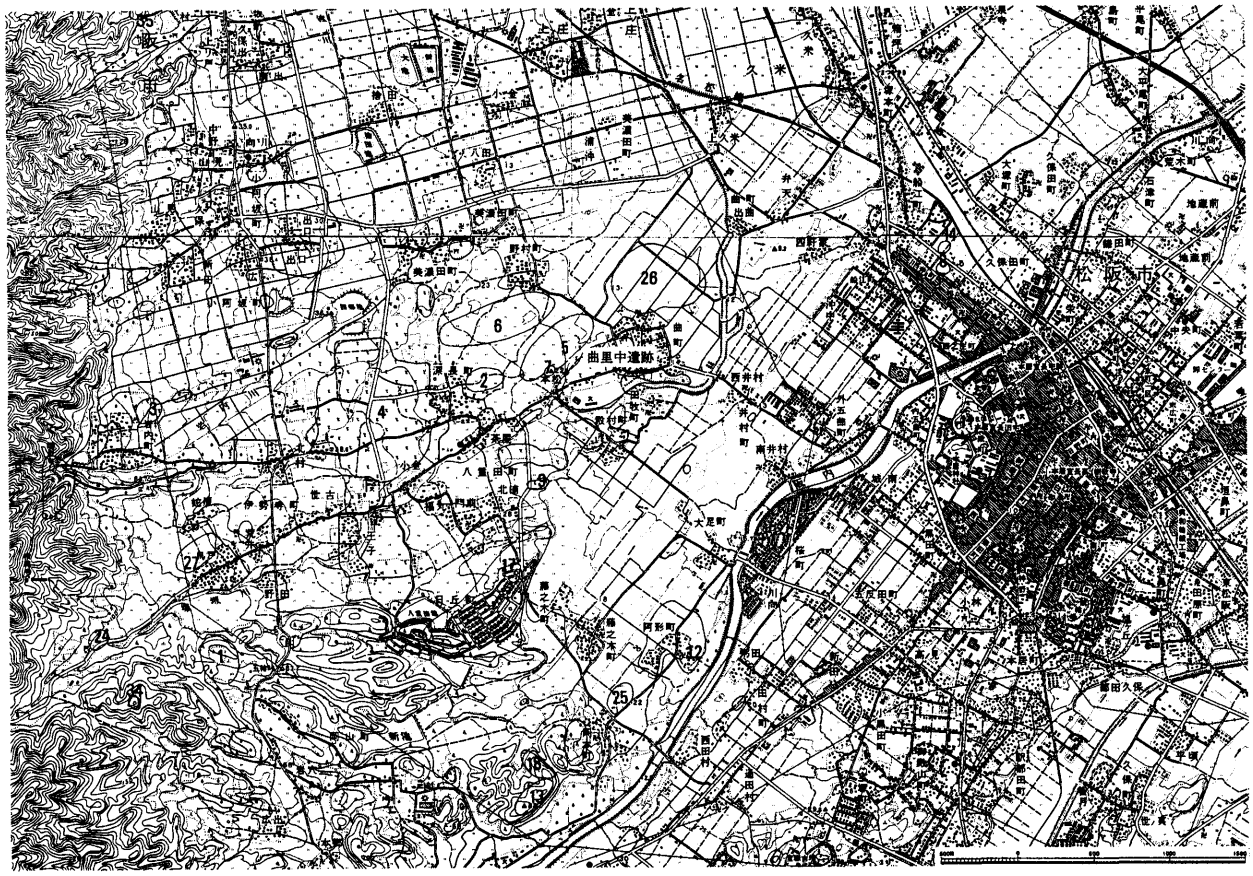
3　検出した遺構

発掘調査の結果、弥生時代から近代にまで至る遺構・遺物が確認された。

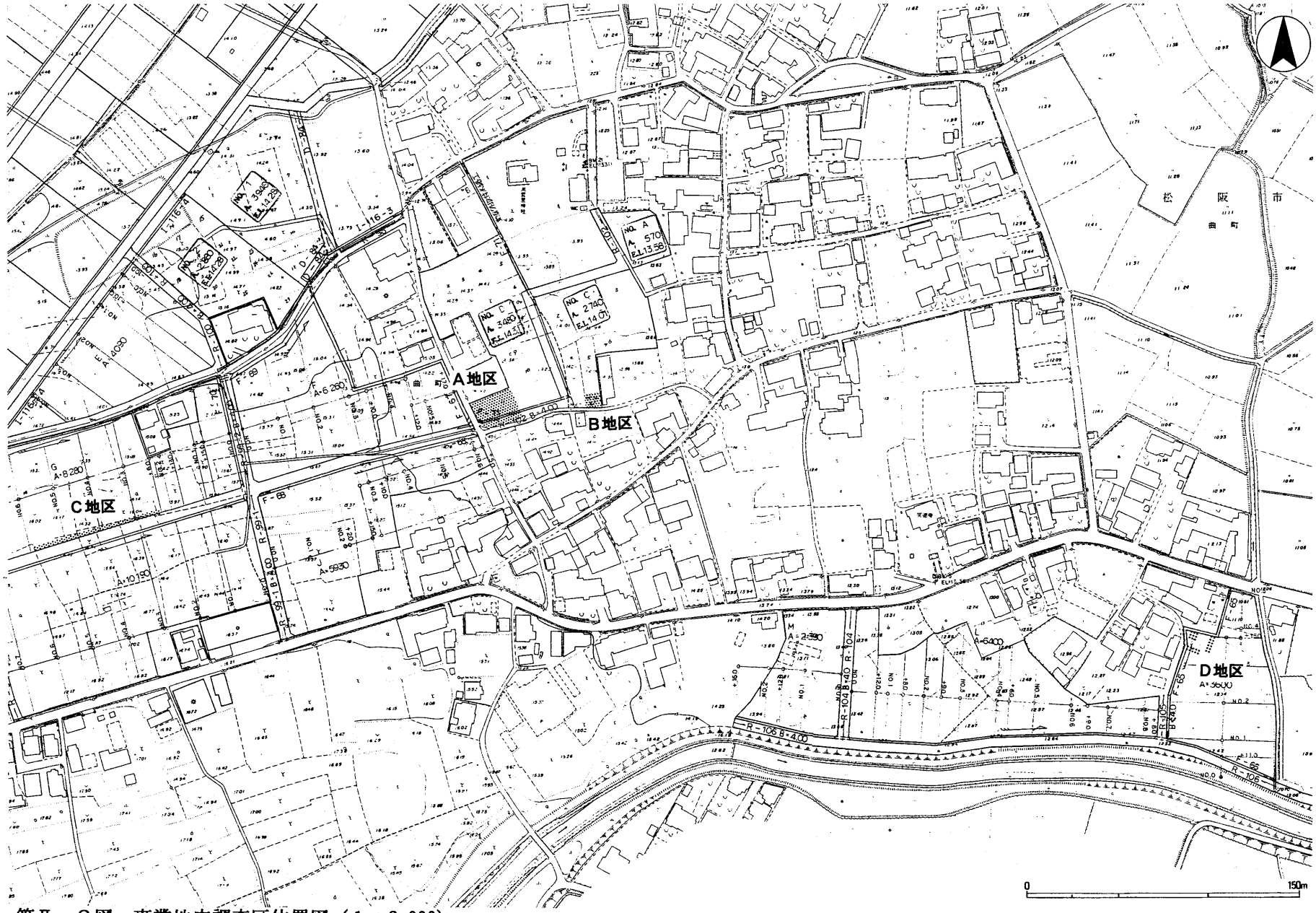
a　Ａ地区

Ａ地区では、竪穴住居１棟と土坑数基を確認した。

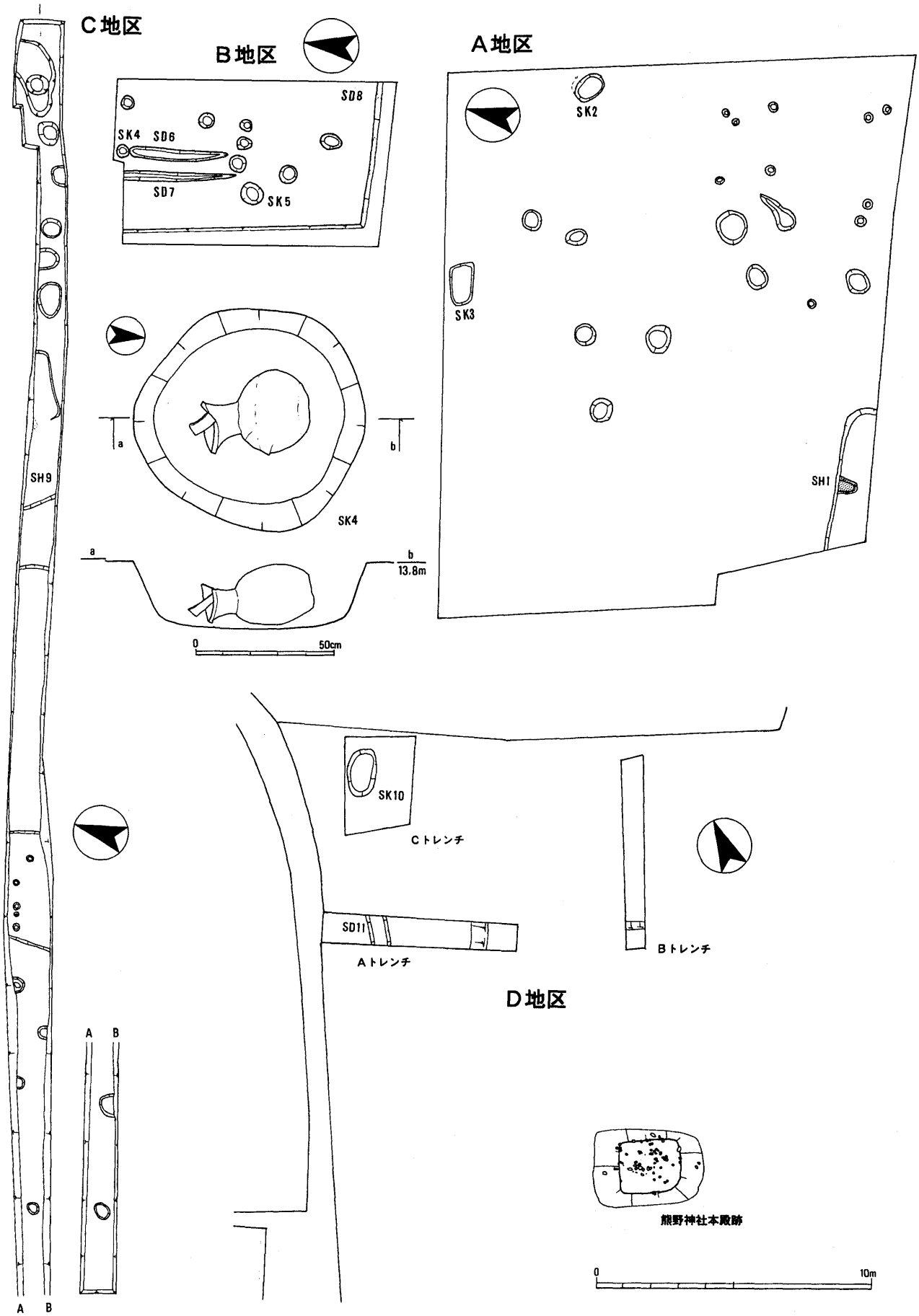
竪穴住居ＳＨ１は平面方形で、大部分が調査区外に及ぶため、規模は不明。北辺の中央に焼土が見られ、カマドと考えられる。古墳時代後期から飛鳥時代にかけての遺構と考えられる。土坑ＳＫ２からは、



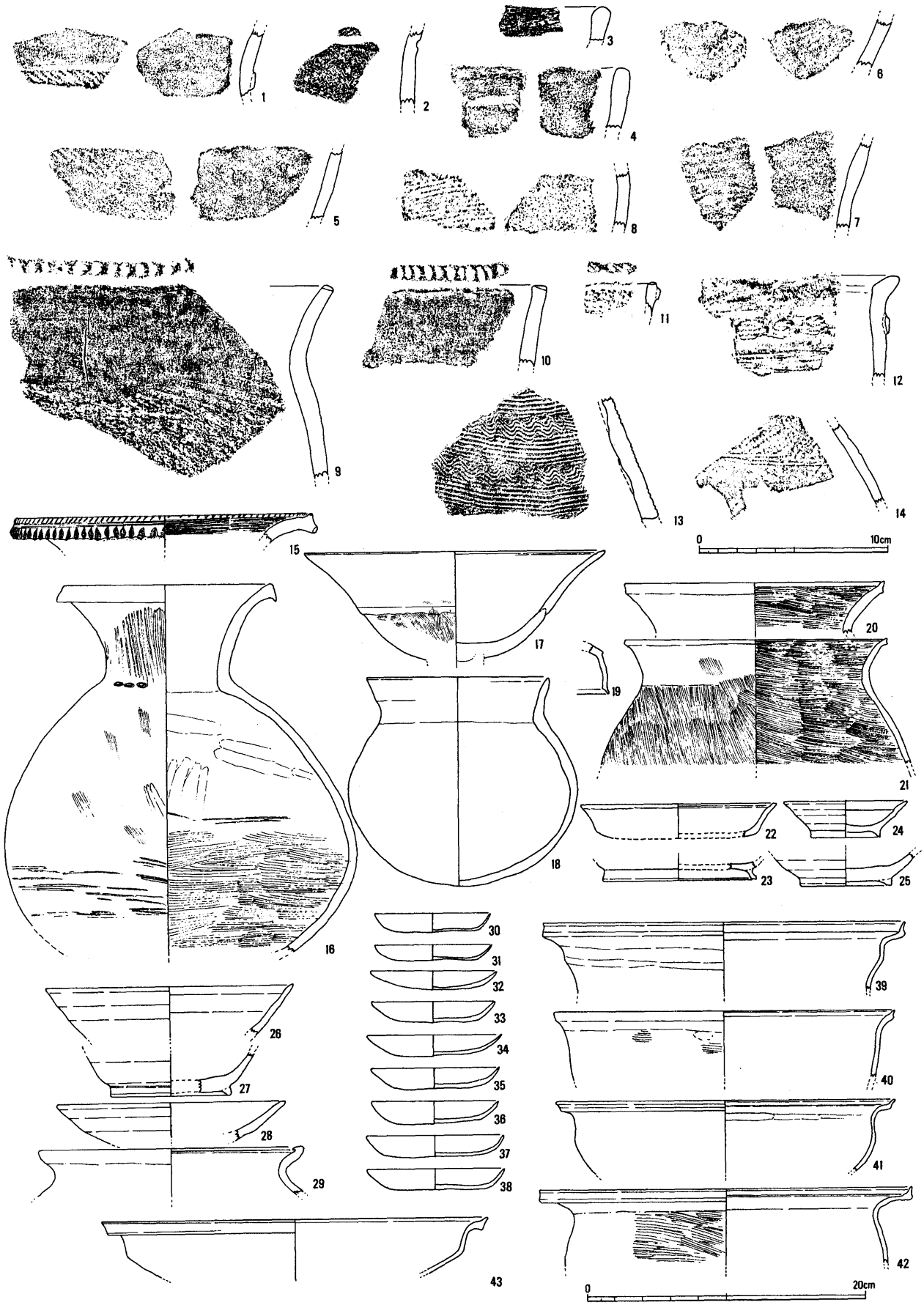
第Ⅱ－１図　遺跡位置図（１：50,000　国土地理院『松阪』に加筆）



第Ⅱ－２図　事業地内調査区位置図（１：3,000）



第Ⅱ－３図　遺構平面図（ＳＫ４は１：２０、他は１：２００）



第Ⅱ－４図　出土遺物実測図（１：４）

平安時代末期にあたる 12 世紀頃の土器類が出土している。

b　B地区

B地区では、土坑数基と溝３条を確認した。

ＳＫ４は平面形が直径約 80 ㎝の円形を呈する。内部に弥生時代後期の壺(16)が横に置かれていた。土器棺墓と考えられる。溝は、いずれも近世のものと考えられる。

c　C地区

C地区では、竪穴住居１棟と土坑数基を確認した。

竪穴住居ＳＨ９は平面方形で、一辺約５ｍほどと考えられるが、大部分が調査区外に及ぶため、正確な規模は不明。中央付近に焼土が見られる。古墳時代中期頃の土器(17・18)が出土している。

d　D地区

D地区は、明治年間まで熊野神社が鎮座していた場所にあたる。付近には長辺約２ｍ、短辺約 1.5 ｍの石敷き土壇が見られ、社殿の跡地と考えられる。調査は、土壇の北部に３ヶ所の調査坑を設定して状況把握を行った。

溝１条と土坑１基を確認した。土坑ＳＫ 10 からは 16 世紀後半から近世にかけての土器類が多く出土した。溝ＳＤ 11 は所属時期が明確ではない。

なお、神社跡地付近には近世の陶磁器類や瓦などが少量散布していた。

4　出土した遺物

出土遺物には、縄文時代後期から近代に至るものがあり、その多くは土器類である。

a　縄文時代の遺物

遺構としては確認されていないが、少量の縄文土器が出土している（１～ 12)。１は突帯上に縄文の見られるもの。２は沈線が確認できるもので、後期のものであろう。３～ 12 は晩期に相当し、９・10 は滋賀里Ⅲｂ式に、11 は五貫森式、12 は馬見塚式に相当するものである。

b　弥生時代の遺物

Ａ・Ｂ地区を中心に、少量の出土が見られた。13 ～ 15 は中期中葉前後のもの。16 はＳＫ４から出土したもので、後期前半頃のものである。

c　古墳時代の遺物

17・18 はＳＨ９から出土した中期頃の土師器で、高杯と丸底甕である。19 ～ 21 はＳＨ１から出土したもので、後期頃のものである。

d　古代の遺物

遺構は明確ではないが、遺物は見られる。22 は土師器杯で、平安時代前葉頃のもの。23 は須恵器杯の高台部分。

e　中世以降の遺物

12 世紀後半頃のもの（24 ～ 29）と、16 世紀後半から 17 世紀前半頃のもの（30 ～ 43）がある。26 ～ 29 はＳＫ２から出土したもの。30 ～ 43 はＳＫ 10 から出土したものである。ＳＫ 10 出土資料のまとまりは良いが、時期幅のある可能性がある。

この他にも、熊野神社跡地付近であるＤ地区を中心に、近世～近代にかけての土器類が見られた。

5　調査のまとめ

曲里中遺跡の発掘調査では、縄文時代から近世・近代に至る遺構・遺物を確認した。なかでも古墳時代中期の竪穴住居からは、当地に当該期の集落が営まれていることが分かるが、古墳時代中期の集落跡確認例は、三重県内では極めて少ない。当該期における集落の状況を知る上で、少ないながらも貴重な事例となろう。

調査地は圃場整備事業が実施されるところであるため、現状では田地であるが、現在の曲町集落内部と言ってよい位置にある。現況集落付近の調査は他の遺跡でもあまり実施されていないが、今回の調査によって現況集落部分にも長期にわたる遺跡が形成されていることが明らかとなった。今後はこの資料をもとに、現況集落部分の状況を把握し、埋蔵文化財の保護に遺漏が無いよう勤める必要がある。

（伊藤裕偉）

＜註＞

(1)三重県教育委員会『昭和 61 年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第１分冊　1987 年)

(2)松阪市教育委員会「曲遺跡」(『県道丹生寺一志線及び県道合ヶ野松阪線道路改良工事敷地内埋蔵文化財発掘調査報告書』1989 年)

本郷遺跡（第２次）遺構(1)

全景（北上空から）

全景（西上空から）

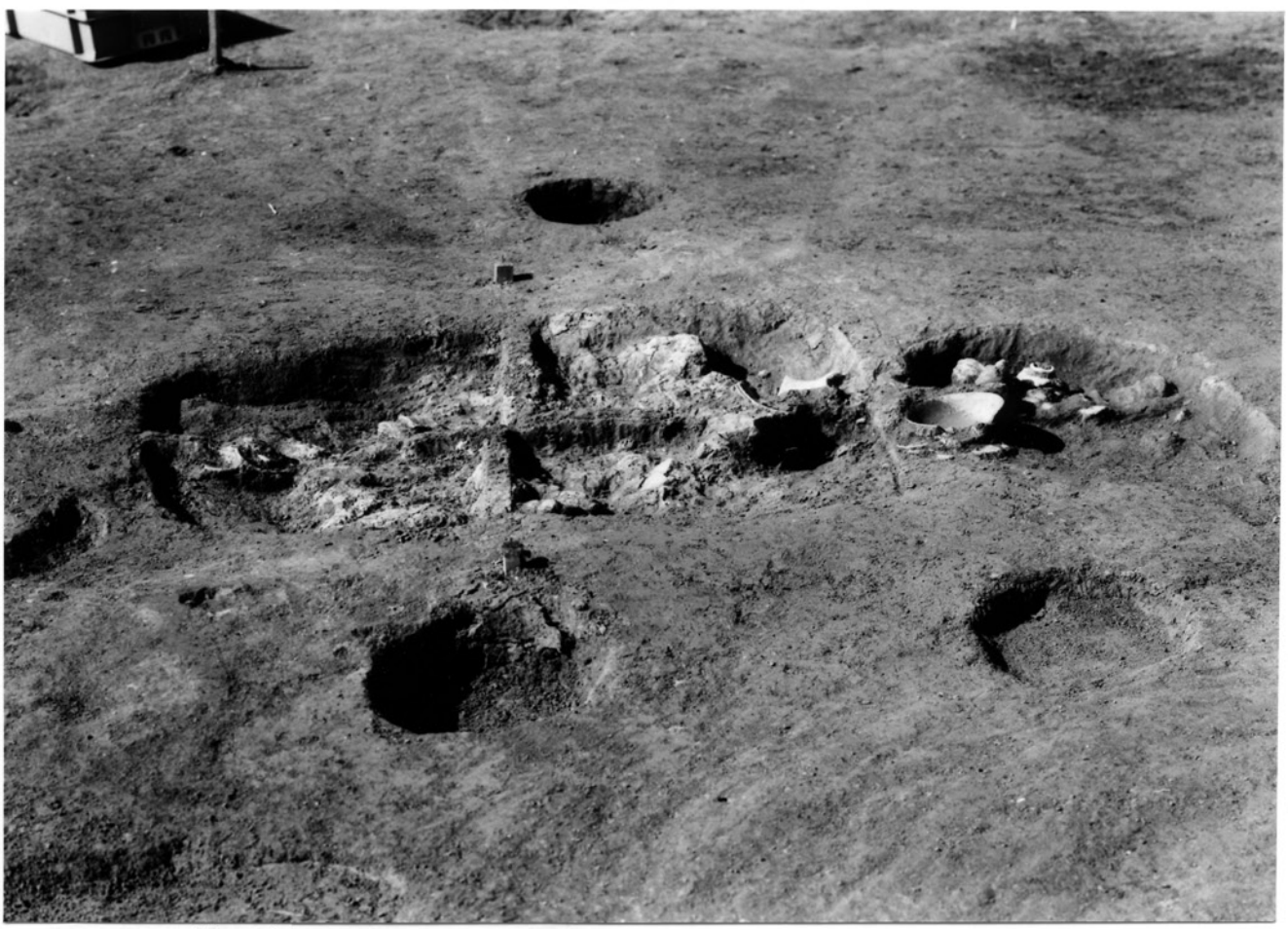
城郭遺構（区画１、南東から）

区画２（南東から）

区画３付近（西から）

掘立柱建物ＳＢ 294 付近（東から）

土坑ＳＫ 101（北から）



焼土坑ＳＫ 146（南から）

土坑ＳＫ 121・130 付近（南から）

土壙墓ＳＸ 195（北から）

土壙墓ＳＸ 262（南から）

井戸ＳＥ 201（南から）

Ｂ地区全景（北東から）

平成4(1992)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年3月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告99-5

本郷遺跡（第２次）・曲里中遺跡

1992（平成４）年３月31日

編集・発行　三重県埋蔵文化財センター